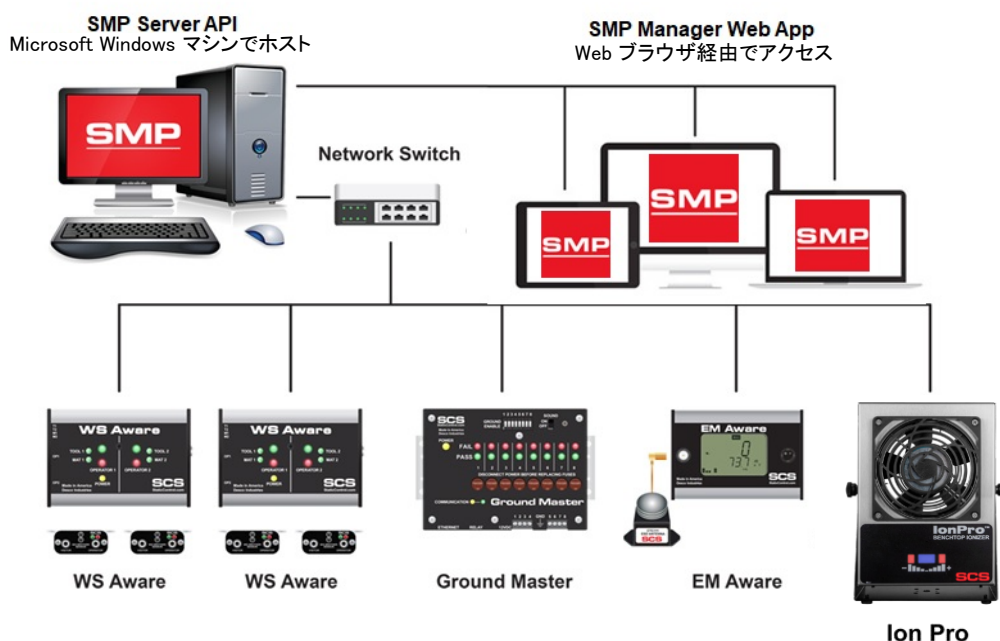


# SCS



## Static Management Program

### ユーザーガイド



何年もの間、電子機器メーカーは「どのようにして静電気の発生を把握しているのか」という質問に答えるのに苦労してきました。御社の製品が電氣的過大ストレスや静電放電の犠牲になっていないことをどのようにして把握していますか？破損した製品が顧客の手に渡らないことをどのようにして把握していますか？

SCS 静電気制御プログラム(SMP)を使用すると、それらを把握する事ができます。

SMP は、静電放電(ESD)イベントを検出し、コンポーネントの障害を防ぐのに役立つ効果的な方法を御社に提供します。静電気制御システムは、ESD、電磁干渉(EMI)、電氣的オーバーストレス(EOS)による損失を減らすことにより、御社が市場で競争上の優位性を達成するのに役立ち、ESD、EMI、EOS の問題に関連する懸念を特定して対処するのに役立ちます。これらの懸念を最小限に抑えることで、歩留まりが向上し、コスト削減と顧客満足度の向上につながる可能性があります。

SMP と SCS 独自の診断用静電気制御機器を組み合わせることで、実際の ESD イベントと EOS(電氣的オーバーストレス)状況を単に評価するのではなく、そのようなイベントを見つけて測定します。当社の製品は、予防的測定が適切に機能しているかどうかを確認するだけでなく、製品に影響を与えるデータをキャプチャ、記録、読み取りを行います。これらはすべてリアルタイムで行われ、御社に実際の結果をもたらします。

## コンテンツ

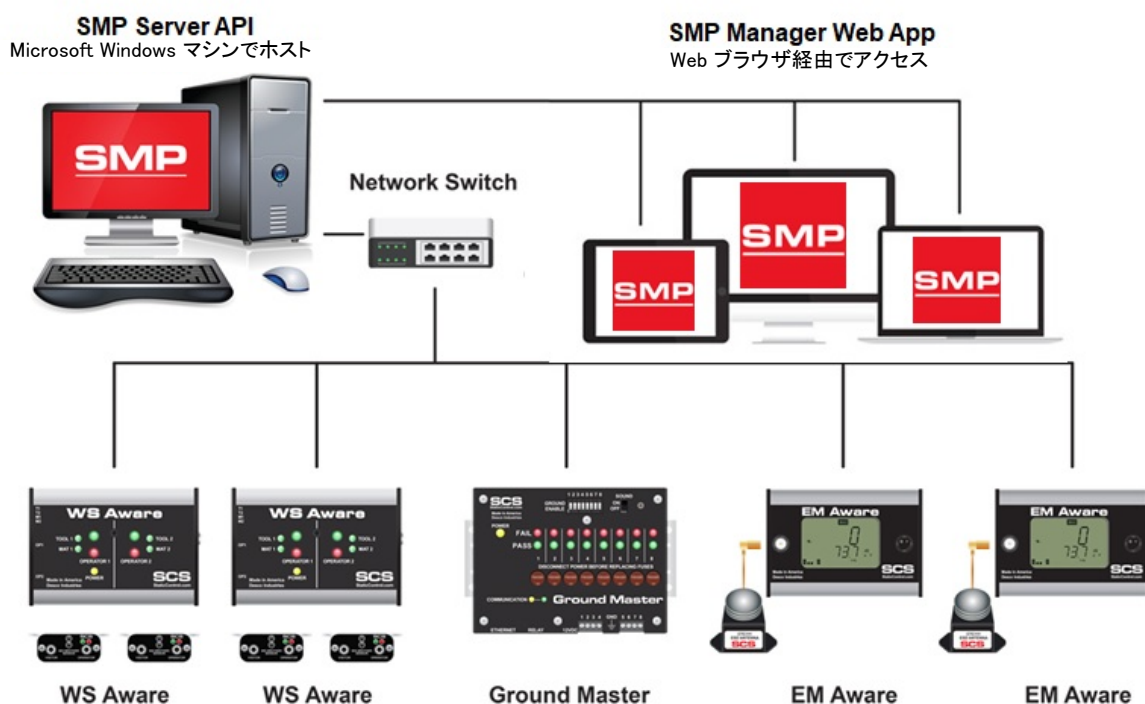
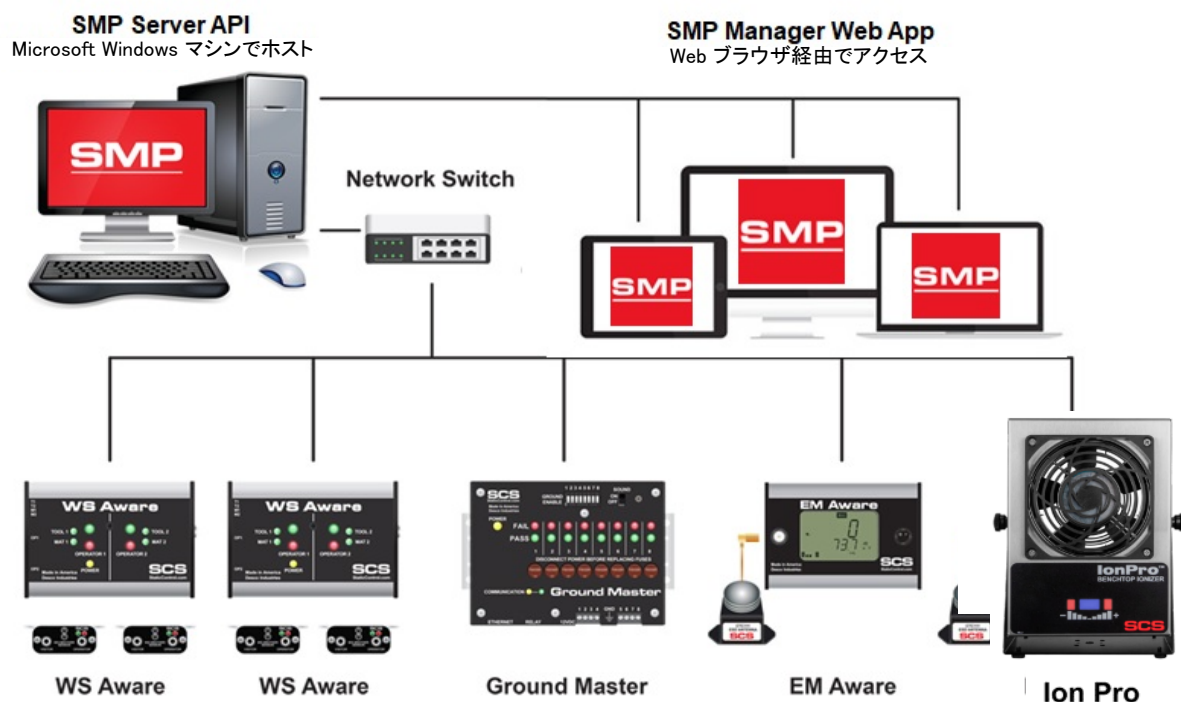
---

概要	4
サーバーのインストール	6
必要条件	6
SQL Server Compact	6
IIS (Internet Information Server)	6
デスクトップ OS (Windows 10)	7
サーバー OS (Windows Server 2016)	10
IIS 用の URL 書き換えモジュール	11
SMP Config	11
インストール	12
SMP Backend	12
SMP Manager	13
SMP Manager	15
共通機能	17
リストビュー	17
リストタイトル	18
フィルタリング	18
新しいコマンド	19
ページ割り	19
リストヘッダー	20
エンティティリスト	20
名前(コマンド)欄	20
詳細ビュー	22
プレビュー	23
エクスポート	23
共通コントロール	25
オートコンプリート入力	25
日時入力	26
システムレイアウトの整理	27
管理	28
ユーザー	28
ライン	28
場所	29

デバイスのレイアウト.....	30
デバイス.....	31
構成.....	31
解決.....	33
ダッシュボード.....	34
リアルタイムモニタリング.....	35
アクティブなデバイスのステータス.....	36
場所のステータス.....	38
場所のライブビュー.....	39
デバイスのライブビュー.....	40
ディスプレイモード.....	41
NG とアラーム.....	42
アクティブなアラーム.....	43
デバイスの直近のアラーム.....	47
レポート.....	47
デバイスの履歴.....	48
テーブルビュー.....	49
グラフビュー.....	49
ステータスビュー.....	49
オプション.....	50
エクスポート.....	50
メニューを使用して履歴レポートにアクセスする.....	51
デバイスの比較.....	52
NG の概要.....	53
アラーム処理.....	55
デバイスの校正.....	56
アラート.....	57
電子メールタブ.....	57
フィルタータブ.....	57
オプション.....	58
一般タブ.....	58
サーバータブ.....	60
言語の変更.....	61
ソフトウェアのアクティベーション.....	61

## 概要

SMP は、SCS モニタリングデバイスの制御、監視、管理用に設計された分散ソフトウェアシステムです。最も基本的な（そして最も一般的な）インストールでは、アーキテクチャは次の図のようになります。



すべての監視デバイスは、ソフトウェアを実行するサーバー（物理または仮想）を備えたローカルエリアネットワークに接続されます。

一般に、SMP は、疎結合されたコンポーネントによる柔軟なアーキテクチャを提供します。

**SMP Backend** は、システム全体の中核です。これには他のすべてのコンポーネントが使用するシステムデータストレージ、バックグラウンド処理ロジック、パブリックサービスレイヤーが含まれています。SMP Backend は、Windows OS 上で動作する.NET サービスとして実装されます。パブリックサービスは、.NET OWIN Web API (JSON over HTTP(S)) として実装されます。

**SMP Manager** は、管理、制御、監視、レポート、システム管理に使用される主要なシステムアプリケーションで、SPA Web アプリケーションとして実装されます (Aurelia フレームワークを使用)。必須ではありませんが、SMP Manager は SMP Backend と同じサーバーでホストできます。また、他のすべてのシナリオ (ローカルイントラネット、VPN、クラウド) がサポートされていますが、SMP Manager はインターネット経由でパブリックにアクセスできる必要があります。

**SMP Config** は、システムのインストール、構成、アップグレードに使用される特別なアプリケーションです。

## サーバーのインストール

---

SMP は柔軟なアーキテクチャを提供します。LAN、インターネット、またはクラウドで実行できます。**SMP Backend** と **SMP Manager** は、同じサーバー上で実行する必要はありませんが、初期セットアップには実行できます。SMP Manager は、SMP Backend と同じネットワーク上の任意の PC からアクセスできます。通信を確立するには、すべての SMP デバイスが同じ LAN 上に存在する必要があります。

### ※注

**SMP Backend** と接続された SMP デバイスは、同じ LAN 上にある必要があります。**SMP Manager** は、バックエンドへの HTTP アクセスがあればどこでもホストできます。SMP は、物理 SMP デバイスが異なるネットワークや場所に配置されているネットワーク設定もサポートしています。

このユーザー ガイドの残りの部分では、標準インストールの要件について概説します。

## 必要条件

### SQL Server Compact

---

SMP は、デフォルトで Microsoft SQL Compact データベース内にデータを保存します。無料の公式ダウンロードは、[Microsoft](#) から入手できます。SQL Server Compact は、**SMP Backend** の唯一の要件です。

### ※注

Microsoft SQL Compact データベースは、**SMP Backend** にのみ必要です。これらの条件は、SMP Manager には適用されません。

### IIS (Internet Information Server)

---

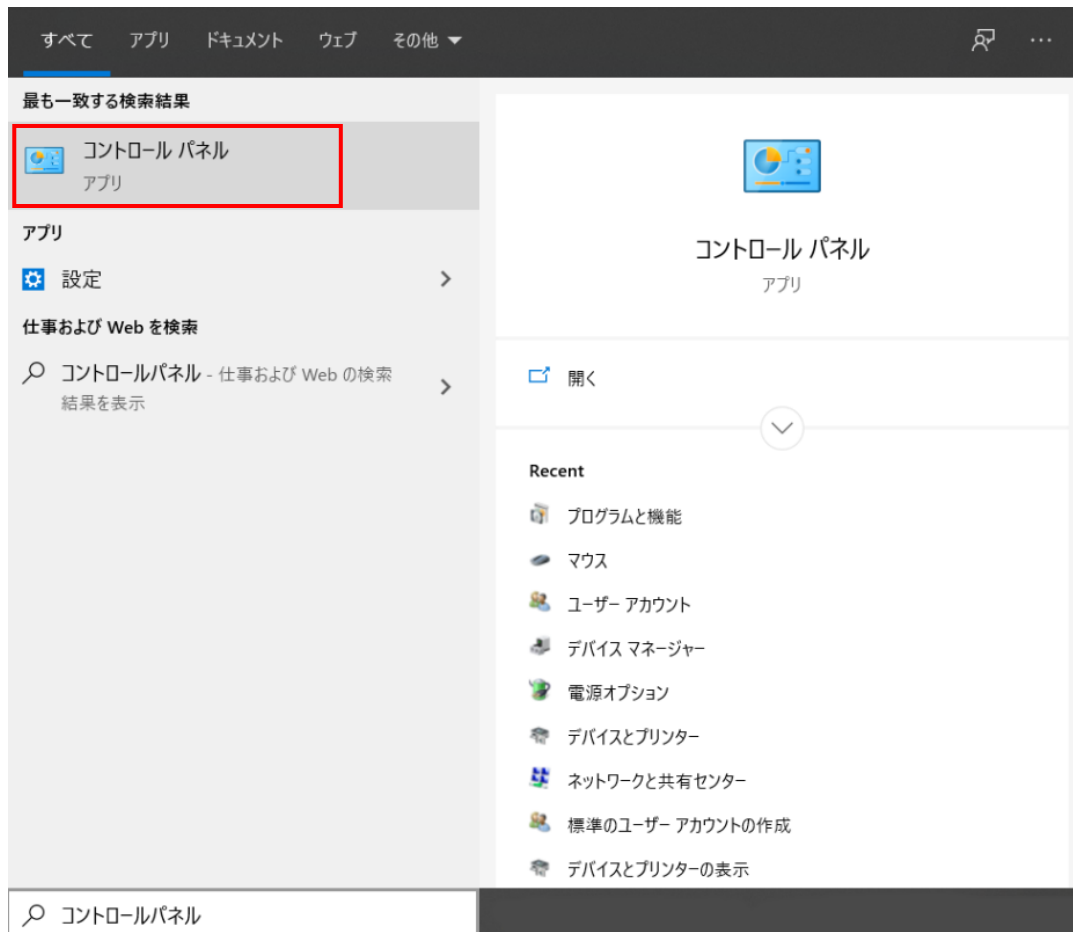
SMP Manager は、シングルページ Web アプリケーション (SPA) として実装され、Microsoft IIS でホストされます。データベースをホストするサーバーには、Microsoft IIS がインストール (有効化) され、適切に構成されている必要があります。

## デスクトップ OS (Windows 10)

Windows OS では、IIS のアクティベーションは、コントロール パネル → プログラムと機能 → Windows の機能の有効化または無効化で確認できます。

### ステップ 1: コントロール パネルを開く

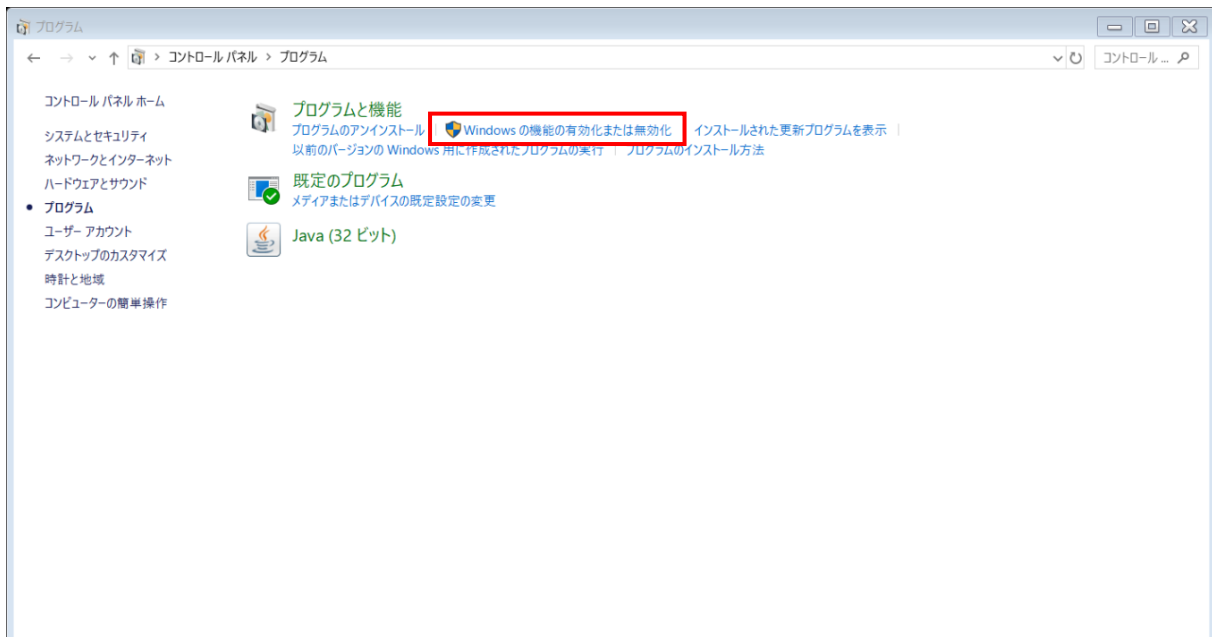
Windows 検索ボックスを使用する



## ステップ 2: [プログラム] をクリックします。

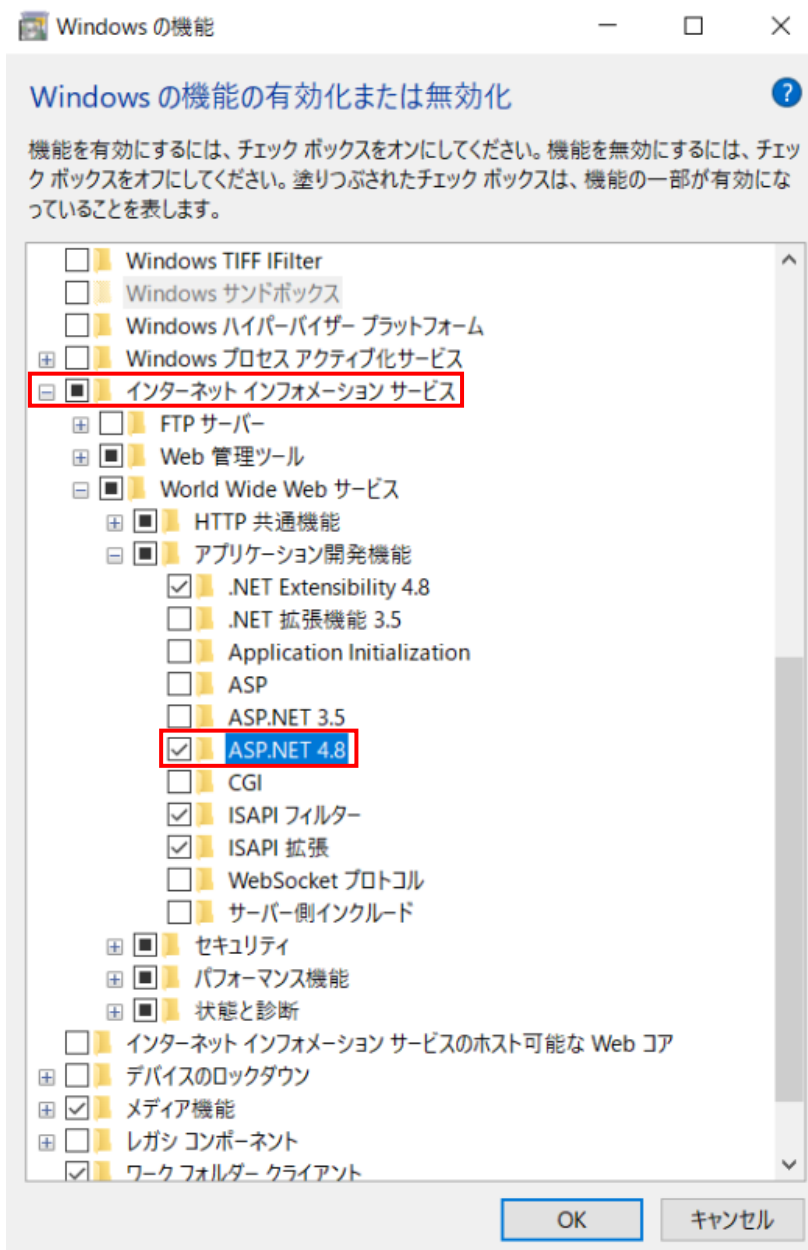


## ステップ 3: [Windows の機能の有効化または無効化] をクリックします。





#### ステップ 4: インターネット インフォメーション サービスと ASP.NET 4.8 を有効にする



- インターネット インフォメーション サービス の左にあるチェックボックスをクリックします (これにより、デフォルトのオプションが選択されます)
- チェックボックスの左にあるプラス記号をクリックして、IIS ノードを展開します
- World Wide Web サービス ノードを展開します (プラス記号をクリックします)
- アプリケーション開発機能 ノードを展開 (プラス記号をクリックします)
- ASP.NET4.8 を選択 (チェックボックスをクリックします)
- OK をクリックします

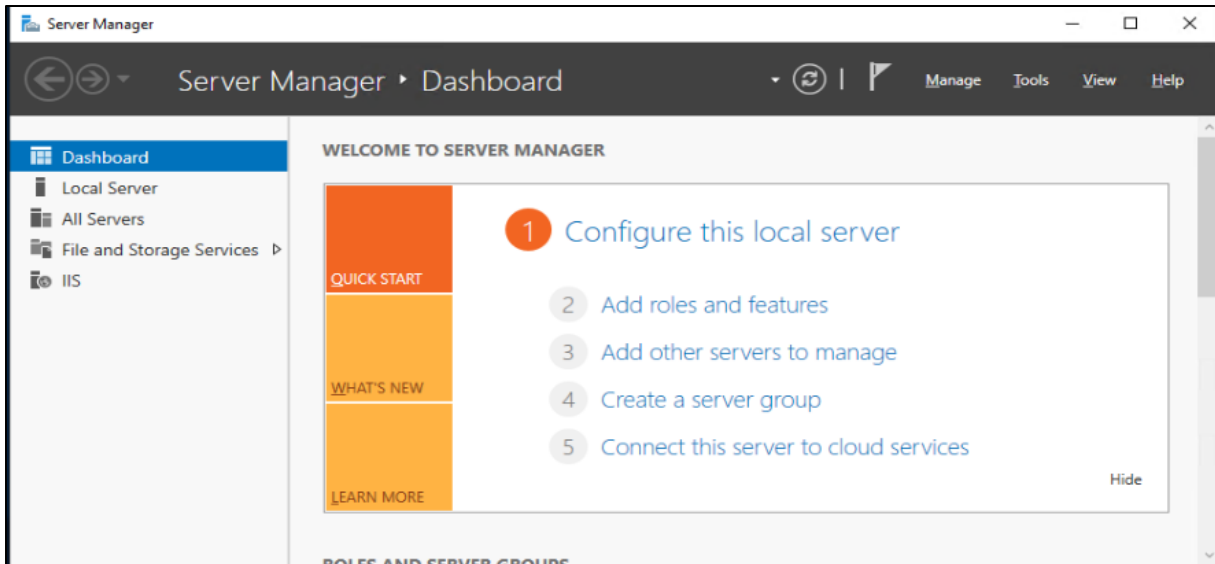
#### ※注

IIS がデスクトップにインストールされていない場合は、上記の手順に従います。既にインストールされ有効になっている場合は、ASP.NET 4.8 機能が有効になっているかどうかを確認します。そうでない場合は、必ず有効にしてください。

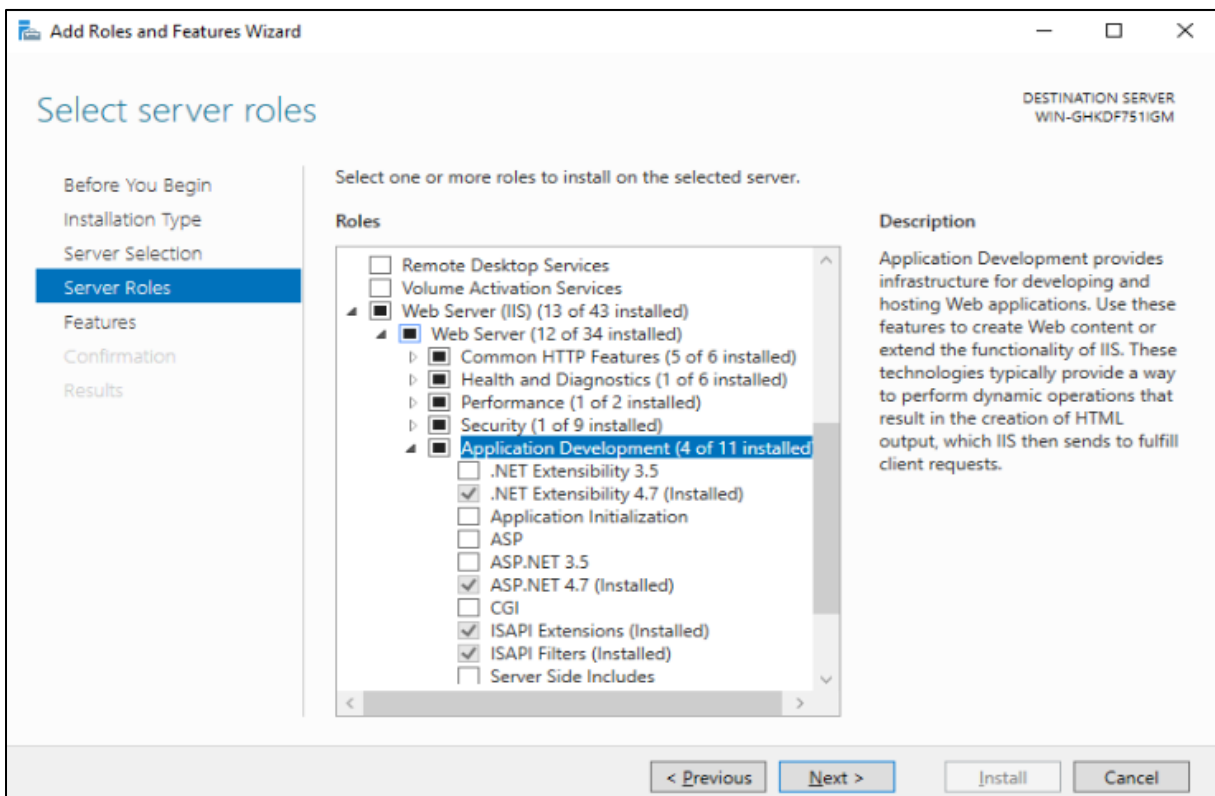
## サーバー OS (Windows Server 2016)

Windows Server OS への IIS のインストール (有効化) は、Windows デスクトップ OS へのインストールと非常によく似ています。(上記の詳細を参照)

インストールは **Server Manager** から開始します。



[Add roles and features]をクリックします。**Web Server (IIS)**を有効にし、アプリケーション開発で**ASP.NET 4.7**を有効にします (IIS が既に有効になっている場合は、必要に応じて ASP.NET 4.7 を有効にします)。



## IIS 用の URL 書き換えモジュール

IIS 用の Microsoft URL Rewrite Module 2.0 は無料で、公式のダウンロードは次のサイトから入手できます。[Microsoft](#).

### ※注

URL 書き換えモジュールは、**SMP Manager Web** アプリケーションのみに必要です。

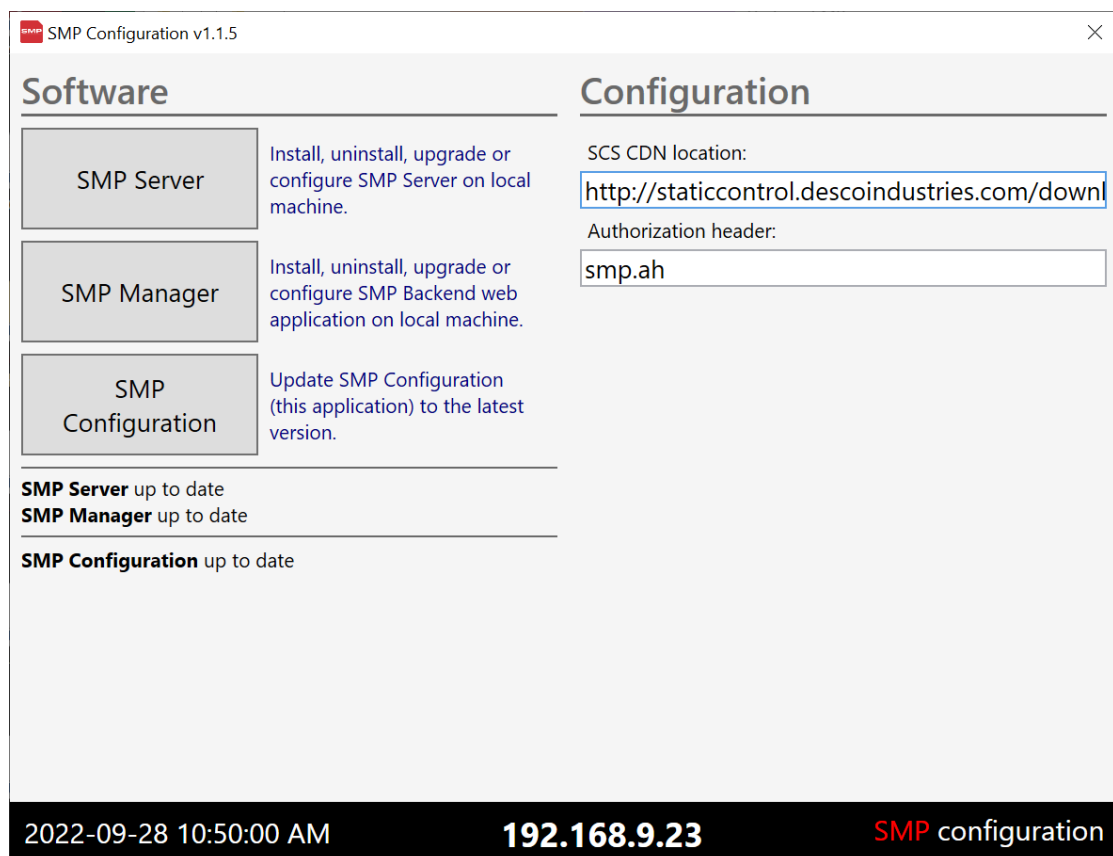
## SMP Config

SMP Config は、SMP コンポーネントのインストール、構成、保守に使用されるアプリケーションです。SCS CDN から入手できます。

- SCS CDN から **ConfigSetup.msi** をダウンロードします。
- ダウンロードしたセットアップ アプリケーションを実行する

セットアップ プログラムは、**SMP Config** アプリケーションをローカル マシンにインストールし、デスクトップ アイコンを作成します。

このアプリケーションは、SMP のインストールとシステム メンテナンス (詳細は次の章を参照) 用です。



メインウィンドウの注記情報部分 - インストールされているバージョンと SCS CDN で利用可能な最新バージョンに関する情報が含まれています。

## インストール

すべての条件が満たされると（上記を参照）、SMP Config アプリケーションは、サーバーのインストールを迅速かつ簡単に行う方法を提供します。これは、ほとんどの一般的なシナリオ（イントラネット、1 台のコンピューター上のサーバーコンポーネント）向けに設計されていますが、独自のネットワークインフラストラクチャ向けに構成することもできます。

SMP Config は、最新バージョンへのアップグレード、(再) 構成、再インストールに使用されるアプリでもあります。

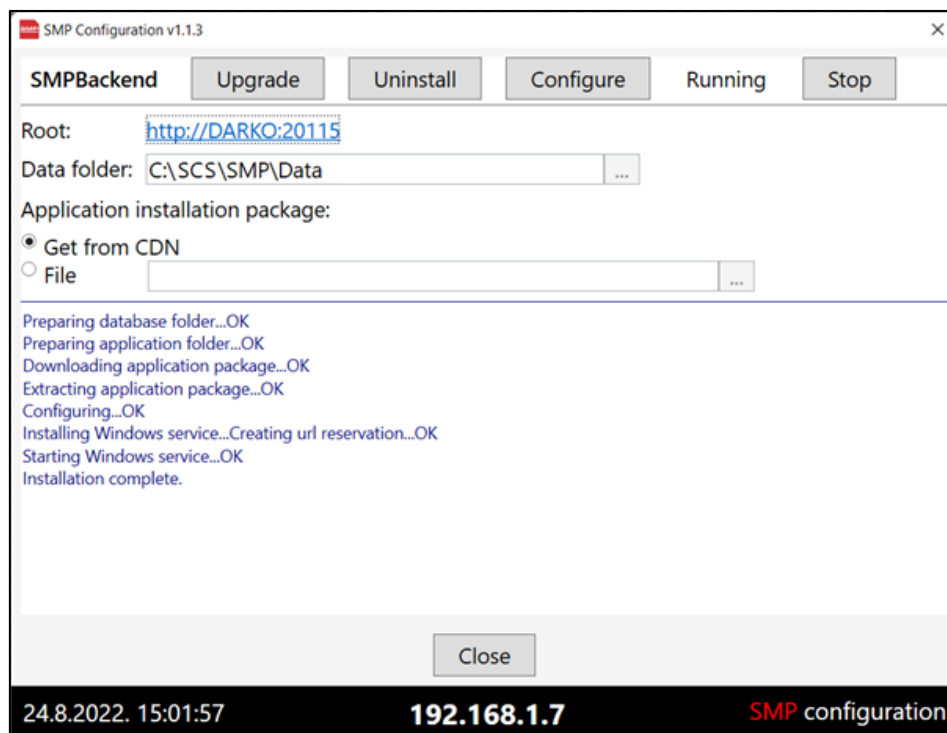
### SMP Backend

SMP Backend をインストールするには、次の手順に従います。

1. 条件を確認する
2. SMP Config の開始
3. [SMP サーバー] ボタンをクリックします。
4. インストール フォルダを選択します (C:\SCS\SMP\Server がデフォルトです)。
5. ポートを選択します (20115 がデフォルトです。それが不可能な場合にのみ変更してください)。
6. データベースのフォルダを選択 (C:\SCS\SMP\Data を推奨)
7. [インストール] ボタンをクリックします

SMP Config は、SCS CDN からインストールパッケージをダウンロードします（前の画面で正しく設定されていることを確認してください）。

インストールが完了したら、**Root** リンクをクリックして Backend のインストールを検証します。Web ブラウザが開き、本文に SMP API を参照するテキストが表示されます。SMP API, © 2022. SCS



SMP Backend は Windows サービスとして実行されます。インストールが成功すると、すぐにサービスが開始されます。

**※注**

アプリ内の機能が変更され、ボタンとアイテムが使用できなくなります。(例: インストールフォルダがグレー表示されます)

Windows サービス (ステータス) に関する情報と、インストールされたサービスを **Start/Stop** するための新しいボタンが利用できるようになります。

利用可能な**アップグレード**ボタンもあります。この機能は、利用可能な新しいバージョンがある場合に使用されます。

**※注**

アップグレード機能は手動です。(自動ではありません) これにより、必要に応じてプロセスを完了することができます

アップグレード機能は、既存のインストールの再インストール/修復にも使用できます。同じバージョンに「アップグレード」されますが、CDN からアプリケーション ファイルを取得すると、誤って削除したり、ファイルが破損したりするなどの問題が修正されます。

**警告！**

アップグレードは Windows サービスを停止しますが、再開しません!

SMP Backend サービスは、アップグレードが正常に完了したら、**Start** ボタンを使用して手動で開始する必要があります。

利用可能な **Configure** ボタンもあります。この機能は、既存のインストールを再構成します。データフォルダまたは認証ヘッダー名を変更するために使用できます。

**※注**

この機能は、SCS が推奨する場合にのみ使用してください。

## SMP Manager

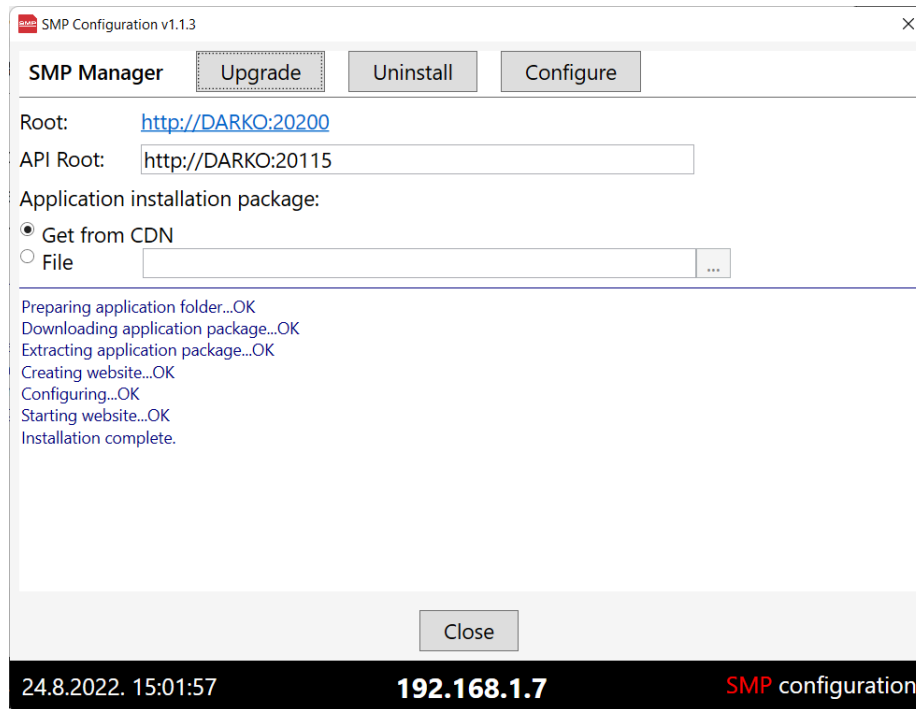
SMP Manager の前に SMP Backend をインストールすることをお勧めします。

SMP Manager をインストールするには、次の手順に従います。

1. 条件を確認する。
2. SMP Config の開始。
3. (オプション) SMP Backend をインストールします。(上記のコメントを参照)
4. SMP Manager ボタンをクリックします。
5. インストール フォルダを選択します。(C:\SCS\SMP\Admin がデフォルトです)
6. ポートを選択します。(20200 がデフォルトです。それが不可能な場合にのみ変更してください)
7. API ルートを設定します。(デフォルトのバックエンド API ルートに自動的に設定されます)
8. [インストール] ボタンをクリックします。

SMP Config アプリは、セットアップのために SCS CDN からインストールパッケージをダウンロードします。(これが前の画面で正しく設定されていることを確認してください)

インストールが完了したら、**Root** リンクをクリックして、SMP Manager のインストールを検証します。Web ブラウザが開き、SMP Manager のログインページが表示されます。(SMP Manager の詳細については、次の章を参照してください)



#### ※注

アプリ内の機能が変更され、ボタンとアイテムが使用できなくなります。(例: インストールフォルダがグレー表示されます)

利用可能な **Upgrade** ボタンもあります。この機能は、更新可能な新しいバージョンがある場合に使用されます。

アップグレード機能は、既存のインストールの再インストール/修復にも使用できます。同じバージョンに「アップグレード」しますが、誤って削除されたファイルや破損したファイルは復元されます。

また、既存のインストールを再構成できる **Configure** ボタンもあります。API ルートまたは認証ヘッダー名を変更するために使用できます。

#### ※注

この機能は、SCS が推奨する場合にのみ使用してください。

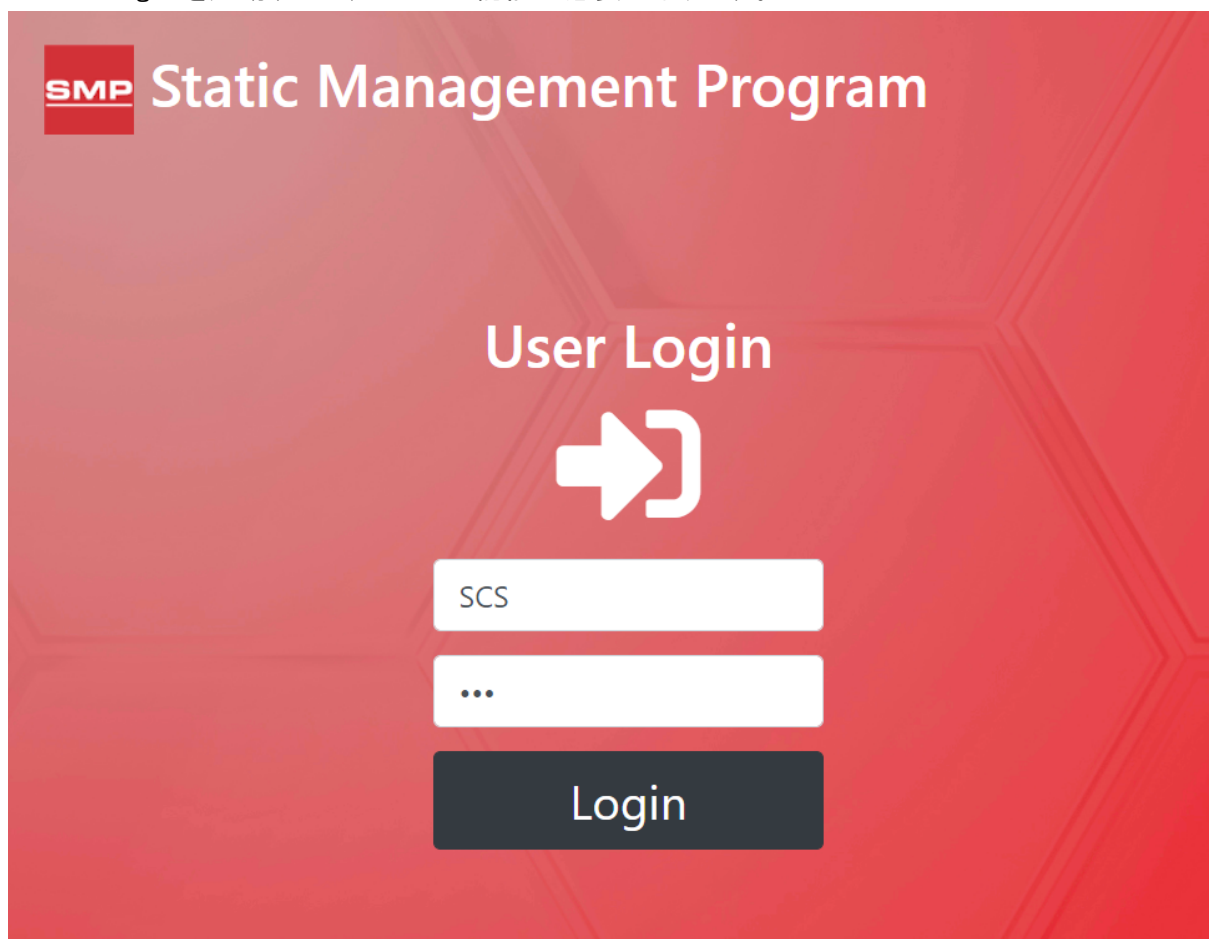
**SMP Backend** は、サーバー上で集中管理する必要があり、任意のコンピューターから **SMP Manager** によってアクセスできます。SMP の Web ベースのプラットフォームにより、同じネットワーク内の任意のデバイス (Web ブラウザにアクセスできる) からのマルチユーザーアクセスが可能になります。SMP デバイスは、同じ LAN である場合にのみ **SMP Backend** と通信します。SMP デバイスが複数の LAN に配置される場合、このシステムはそれを許可するように構成できます。このセットアップの詳細については、SCS の担当者にお問い合わせください。

## SMP Manager

SMP Manager は、SMP システムへのアクセスを提供する Web ポータルです。以下を提供するように設計されています。

- ・ モニター、アラーム、レイアウト、設定などのシステム エンティティの管理
- ・ 多彩なクエリ、レポート、アラート機能を含むシステム状態の常時監視
- ・ SMP デバイスの操作パラメーターの制御
- ・ さまざまな形式 (Excel、html、テキスト、電子メール) でのデータのエクスポート
- ・ モニター管理用のレイアウトのインポート
- ・ SMP 操作全体の制御

SMP Manager を起動すると、ユーザー認証が必要になります。



すべてのインストールには、定義済みのユーザー名とパスワードが付属しています。複数のログインプロファイルを作成できます。(「ユーザー」セクションを参照) デフォルトのユーザー名は **SCS** (大文字と小文字を区別しない) で、パスワードは **scs** (大文字と小文字を区別する) です。このユーザーは**所有者**の役割を持っているため、完全な管理権限が含まれています。(役割の権限については、「ユーザー」セクションを参照してください)。

## 警告！

デフォルトのユーザープロフィールを有効にしておく、セキュリティ上のリスクが生じる可能性があります。

デフォルトの「SCS」プロフィールを新しいプロフィールに置き換えることをお勧めします。下記参照：

1. ユーザーを開く (管理者権限にて)
2. 新規ユーザーをクリックします
3. 新しいユーザーを定義します - ロールを所有者に設定します (重要!)
4. 定義済みの SCS 管理者からログアウトします (サイドバー メニュー)
5. 作成したユーザーでログインします
6. すべて問題ない場合は、もう一度 [ユーザー] に移動し、SCS 管理者を削除します (赤い削除ボタン)

SMP Manager が正しくインストールされ、構成されている場合、ダッシュボード ビューが表示されません。



ナビゲーションメニューは左側のサイドバーにあり、ログアウトボタン、ライセンス情報、アクティブボタンにアクセスできます。他の画面を表示している場合は、左上隅の SMP アイコンでダッシュボードビューに戻ります。

ダッシュボードは、次の「ウィジェット」で構成されています。

- 場所の階層とステータス
- アクティブなアラームのライブラリスト (  ボタンを使用して表示を切り替えます)

システムダッシュボードは「ライブ」であり、現在のシステムステータスを常に反映するように自動的に更新されます。

SMP Manager は「レスポンシブ」Web アプリケーションです。小さな画面 (タブレット、モバイル デバイスなど) に合わせて再配置します。



## 共通機能

SMP Manager は、以下に示すように、[管理者] メニューの下にあるすべてのシステムエンティティの完全な管理を提供します。



例えば、デバイスをクリックすると、標準の「マスター」(リスト) ビューが開きます。

### リストビュー

デバイス

表示中 1-3 の 3 (1)

ページサイズ 20 (4)

名前 (5)	シリアル	デバイスのタイプ	ライン	場所	状態
EM	E41004190401	EM Awareモニター	JP1	JP1	アクティブ
test (7)	BC0002239022	Ion Pro ベンチトップ イオナイザー (6)	TEST	TEST	非アクティブ
WS	E31004190413	WS Aware モニター	JP1	JP1	非アクティブ

ページサイズ 20

SMP Manager のすべてのリストビューは類似しており、次の機能があります。

1. 全体のエンティティ数を含むタイトル
2. フィルタリング
3. 新しいエンティティを作成するためのボタン (デバイスでは使用できません)
4. ページ割り
5. ヘッダーを並べ替えて一覧表示し、すべてを選択する
6. フィルタリングされたエンティティのリスト
7. エンティティ名と一連の使用可能な操作を含む最初の列

上記のデバイス ビューには、考えられるすべてのコンポーネントが含まれています。他の一部のエンティティ (またはレポート) リストには、関係のないパーツやコマンドが含まれていない場合があります。リスト ビューは常にシームレスに適応します。

### リストタイトル

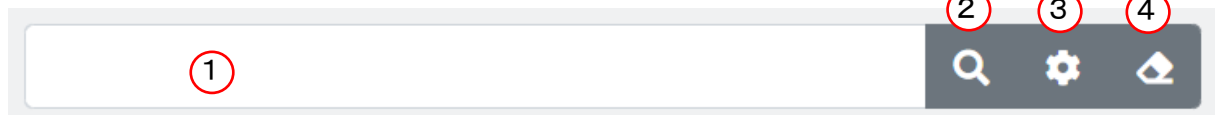
リスト タイトルには、関連付けられたリストを説明するタイトルと、全体的な (フィルター処理された) エンティティ数に関する情報、および表示されるエンティティに関する情報が含まれます。

## デバイス

表示中 1-3 の 3

### フィルタリング

すべてのリストは、さまざまな方法でフィルタリングできます。



1. 入力欄
2. 検索ボタン
3. 高度なフィルターボタン
4. フィルタークリアボタン

最も基本的なオプションは、用語によるフィルタリングです。用語入力フィールドに任意のテキストを入力し、Enter キーを押す (または検索ボタンをクリックする) ことで実行できます。リストビューはすぐに更新され、入力した用語を「含む」エンティティのみが表示されます。

たとえば、検索語に **WS** を入力すると、WS V2、WS 1、Test WS Aware、Browser など、「ws」を含むすべての名前に一致します (文字の大文字と小文字は関係ありません)。

#### ※注

SMP タームマッチングは、より広範囲に及びます。エンティティごとに、一連の「期間」属性が定義されます。デバイスの例では、上記の検索は、WS を含むシリアル番号を持つデバイスにも一致します。

より高度なシナリオには、高度な意味のあるフィルタリングオプションを提供します。高度なフィルターは、関連するエンティティに自動的に適応します - デバイスの場合:

### 高度なフィルター

条件を満たすデバイスのみを表示:

状態	デバイスのタイプ
<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="button" value="アクティブ ×"/> <input type="button" value="非アクティブ ×"/>	<input type="button" value="グランドマスターモニター ×"/> <input type="button" value="WS Aware モニター ×"/>
<input type="button" value="適用"/>	

適用ボタン (またはフィルターバーの検索ボタン) をクリックすると、それに応じてリストがフィルター処理されます。

フィルターバーの高度な (拡張) フィルター ボタンは、高度なフィルターフォームの表示を切り替えます。

最後に、[フィルターのクリア] ボタンを押すと、すべてのフィルター条件がクリアされます。「すべて表示」コマンドと同等です。

#### ※注

高度なフィルターボタンとフィルターのクリアボタンは、フィルター処理が適用されているかどうかを示します。フィルター (タームフィルターを含む) がアクティブな場合は青色になり、それ以外の場合は灰色になります。

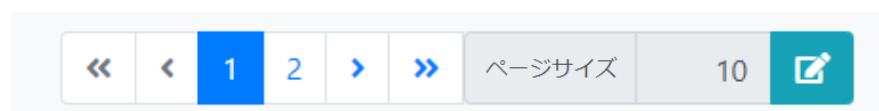
#### 新しいコマンド

デバイスと解決を除くすべてのリストビューには、新しいアイテムボタンが含まれています。



#### ページ割り

画面に大きなリストを表示してもほとんど役に立ちません。SMP Manager は標準化されたページ割りを使用します。



ページサイズを調整するためのコントロールで構成されています。ページ割りは、必要な場合、表示されているエンティティよりも多くのエンティティがある場合にのみ表示されます。

## リストヘッダー

リストヘッダーにはタイトルが含まれており、その一部はマウスカーソルとそのすぐ右にある矢印によって示されるようにクリック可能です。クリック可能なタイトルを使用してリストを並べ替えます。タイトルをクリックすると、関連する属性の昇順と降順の並べ替えが切り替わります。

左端の列には、ドロップダウンメニュー付きのチェックボックスがあります。デバイスの場合は次のようになります。



チェックボックスはすべてを選択/選択解除するために使用され、ドロップダウンメニューには現在の選択に関連するコマンドが含まれています。

## エンティティリスト

リストの本文には、定義済みの列が表示された（フィルター処理された）エンティティのリストが含まれているだけです。

左端の列には、個々のアイテムを選択/選択解除するためのチェックボックスがあります。

小さな画面では、多数の列を含むリストはビューポートに収まらない場合があります。その場合、リストはスクロール可能（左/右）になります。

## 名前(コマンド)欄

最初の列には常にエンティティ名（または説明）と一連の関連コマンドが含まれます。



すべてのエンティティに対する標準操作（コマンド）は、編集（変更）、削除、プレビューです。

プレビューは常に利用できるわけではありません（複雑なエンティティとレポートの場合のみ）。このオペレーターの例では、名前は実際にはボタンです。クリックすると、オペレータープレビューがポップアップ形式で開きます。

一部のリストビュー（特にレポート）では、行全体がプレビュートリガーになります。その場合、カーソルの変化によってプレビューの可用性が目立ちます。

デバイスリストには、オペレーター名の横に別の編集ボタンがあります。単純なエンティティ（線など）の場合、このボタンは表示されません。単純なエンティティにはプレビューオプションがないため、名前をクリックすると編集（詳細）フォームが開きます。

削除ボタンは十字の付いた赤いボタンです。削除する場合、常に確認が求められます



#### ※注

SMP は、ソフト削除とハード削除の概念を使用します。物理削除はエンティティをシステムから削除し、元に戻すことはできません。一方、論理的な削除は、エンティティを削除済みとしてマークするだけで、システムに保持します。論理的な削除は、エンティティの状態を削除済みに設定することと同じです。

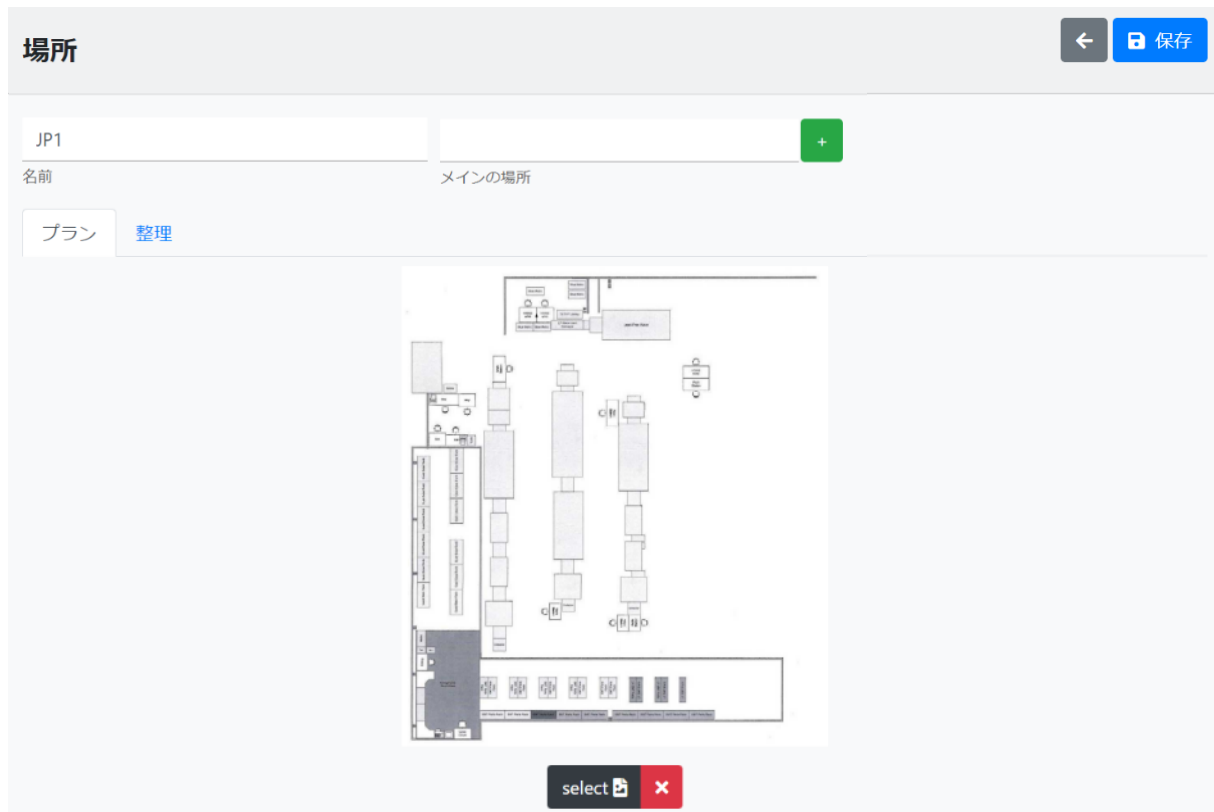
SMP では、ソフト削除を単に「削除」と呼び、ハード削除を「消去」と呼びます。複雑なエンティティにはステータス属性があり、ソフト削除とハード削除の両方を使用できます。単純なエンティティにはステータスがなく、ハード削除のみが利用可能です。（これらの場合、削除 = 消去）

ハード削除は成功しない場合があります。エンティティを削除するとデータの一貫性が損なわれる場合（エンティティがどこかで参照されている場合）、消去は失敗し、情報メッセージが表示されます。

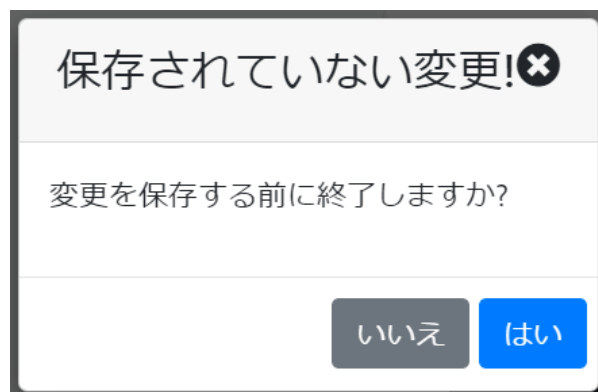
一部のエンティティには、追加のコマンドがあります。デバイスの場合は、ライブ（リアルタイム）ビュー、設定のコピーと貼り付けです。

## 詳細ビュー

エンティティは、詳細ビュー（フォーム）を使用して作成および編集されます。これらは常に、リストビューで [新規作成] または [編集] コマンドを使用して呼び出されます（詳細については、前のセクションを参照してください）。場合によっては、それらは非常に単純で、ポップアップとしてすばやく表示されることもあります。場合によっては、かなり複雑で、複数のタブが含まれる場合があります。（場所のフォームなど）



詳細ビューには常に、戻る（灰色の左矢印）と保存（青いボタン）の2つのコマンドが含まれています。戻るコマンドは前の場所（リストビュー）に戻りますが、変更が行われた場合はプロンプトが表示されます。



保存は、行った変更を保存し（存在する場合）、以前の場所（リストビュー）に戻ります。

## プレビュー

プレビューは、もう1つの標準 SMP Manager 機能です。複雑なエンティティ、NG 履歴など、さまざまなレポートに使用できます。

EM (E41004190401) ✕

EM Awareモニター アクティブ

場所: JP1 ライン: JP1

**構成**

アラーム		警告	
静電圧の範囲	1,000.00 V	ESDの警告	90.00 dBμV
ESDの限界	81.50 dBμV	静電圧の警告	800.00 V
静電圧の限界	100.00 V	Balance Voltage Warning	
Balance Voltage Limit		減衰の警告	
減衰の限界	35.00 s		
距離	1.00 inch		

プレビューは常にポップアップウィンドウに表示されます。ポップアップウィンドウは、閉じるボタン (×の付いた灰色のボタン) を使用するか、エスケープキーを押すだけで閉じることができます。

## エクスポート

エクスポートは、すべてのレポートの標準機能です。

データをエクスポートする主な目的は、レポートをカスタマイズし、データを外部システム/アプリケーションと同期することです。レポートは次の形式で提供されます。

- Excel
- タブとコンマで区切られたテキスト
- PDF

エクスポート機能は (レポート用に) 拡張され、次の機能も備えています。

- PDF プレビュー (印刷に便利です)

すべてのレポート ページには、右上隅にアクション ボタンがあります。



エクスポートオプションをクリックすると、カスタマイズ用のフォームが表示されます

### エクスポート

Alarms Handling

ファイル名

最初の行の列名

Excel 2007+

フォーマット

桁:

<input checked="" type="checkbox"/>	桁
<input checked="" type="checkbox"/>	時間
<input checked="" type="checkbox"/>	アラーム
<input checked="" type="checkbox"/>	デバイス
<input checked="" type="checkbox"/>	重大度
<input checked="" type="checkbox"/>	評価する
<input checked="" type="checkbox"/>	処理済み
<input checked="" type="checkbox"/>	アクション
<input checked="" type="checkbox"/>	担当者
<input checked="" type="checkbox"/>	コメント

取消     エクスポート

これにより、列（属性）、出力形式、ファイル名の選択が可能になります。

エクスポートを選択すると、レポートが生成され、ダウンロードフォルダにファイルが作成されます。

#### ※注

エクスポートには、常に現在のフィルタリングされた選択が含まれます。標準のフィルタリングおよび並べ替えオプションを使用して、必要なレポートを作成します。

PDF オプション（ボタン）は、結果の PDF を新しいブラウザタブで開きます。これは、他のアプリケーションで提供される印刷プレビュー機能に似ています。

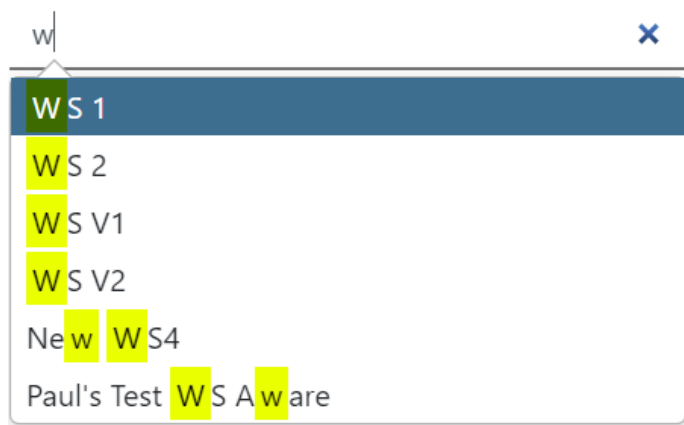


## 共通コントロール

SMP Manager は、標準の UI コントロール（ボタン、入力フィールド、ドロップダウンリスト、チェックボックス、スイッチなど）を使用しますが、次の機能も使用します。

### オートコンプリート入力

オートコンプリートは、挿入される文字に基づいて提案を提供します。提案は、SMP Manager で使用可能なテキストに基づいています。



Enter を選択すると、強調表示された提案の適用が「完了」します。

下向き/上向き矢印を使用して、強調表示された提案を変更したり、目的の提案をクリックしたりすることもできます。

#### ※注

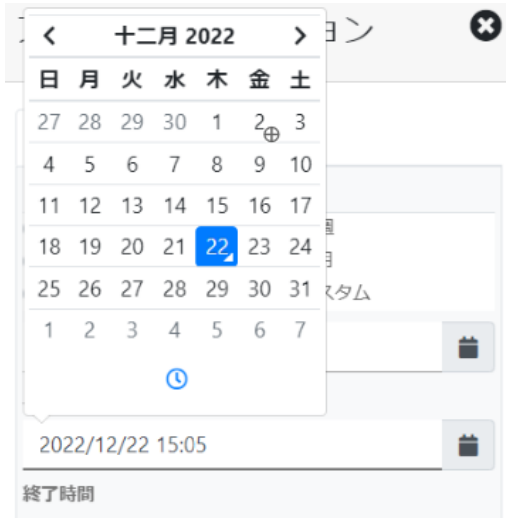
ヒントを入力せずに、「すべての」利用可能な選択肢を一覧表示することもできます。これは、入力フィールドが空のときに下矢印を押すと実行されます。オートコンプリートは、利用可能なすべてのエンティティを表示します。

オートコンプリートの候補は、常に**最初の 12 件の一致**に限定されます。提案は常にランダムな順序で表示されます。オートコンプリート機能により、オペレーターは完全なデバイス名をすばやく識別できます。この機能を使用すると、複数の選択を行う、詳細なフィルタリングを行うこともできます。



## 日時入力

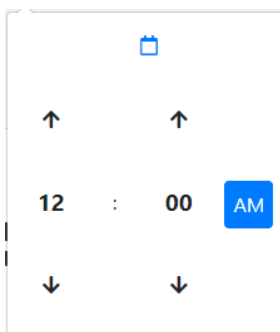
SMP Manager は、日付と時刻が使用可能な特別な入力コントロールを使用します。



日付と時刻を選択できる入力フィールドは、選択すると拡張されます。

時間の更新のみが必要な場合、そのコントロールは表示されるだけで、ほとんどの場合は上記のようになります。

時計アイコンを選択すると、特定の時間を選択できるように切り替わります。



また、カレンダーアイコンを使用して元に戻すことができます。

日付モードでは、ウィンドウの上部で月を選択すると、月の選択が表示されます。



年を選択すると、年セレクターが表示されます。

## システムレイアウトの整理

SMP は、ローカルネットワークに接続されているすべての SCS デバイス (モニター) を自動的に検出します。SMP は、各デバイスをシリアル番号で識別します。非アクティブとしてネットワークから切断された場合でも、デバイスは常にソフトウェアに残ります。

### 情報！

デバイスが再配置されてもネットワークサブネット内にある場合、そのデバイスはアクティブなままになります。デバイスがレイアウトに関連付けられている場合、レイアウトが変更されるまで同じ場所に表示されます。

SMP Manager を使用すると、オペレーターがデバイスの場所を簡単に識別できるレイアウトにダッシュボードを編成できます。標準システムレイアウトは、次のもので構成されます。

- 場所
- ライン
- デバイス

**場所**は、ラインとデバイスをグループ化するエンティティです。これは通常、施設内の物理的な場所 (フロアまたは建物など) に対応します。これは、グループ化の概念を表すこともできます。

**ライン**は、1 つ以上のデバイスのグループです。各場所には 1 つまたは複数のラインを含めることができ、各ラインには 1 つまたは複数のデバイスを含めることができます。

### 情報！

場所は通常、レイヤーで編成されます。この例として、複数の建物と複数の部屋を含む工場があります。

通常、最下位レベルの場所のみにライン (およびデバイス) が含まれ、上位レベルの場所はシステムレイアウトを表します。

**デバイス**は主要な SMP エンティティであり、行ごとに編成されています。

### 情報！

特定のデバイスを場所に「配置」するには、その場所に属するラインが必要です。したがって、標準的なプロセスは次のようになります。

- 場所を作成する
- ラインを作成し、その場所に接続します
- デバイスをそのラインに接続する

ロケーションプランとナビゲーションウィンドウの詳細については、ユーザーガイド全体で説明します。

## 管理

### ユーザー

ユーザーは、SMP Manager にアクセスできるエンティティです

The screenshot shows a user management form with the following fields and controls:

- SCS: [ ]
- 名前: [ ]
- 名前: [ ]
- メールアドレス: [ ]
- オーナー: [ ]
- アクティブ: [ ]
- 役割: [ ]
- 状態: [ ]
- パスワードを変更する: [button]
- ユーザー名: [ ]

役割は権限を定義するため、重要です。

- 管理者と所有者は、利用可能なすべての機能に完全にアクセスできます
- マネージャーはアクセスが制限されています
- ユーザーには「読み取り」アクセス権しかありません（表示はできますが、変更はできません）。

ステータスを アクティブ以外に設定すると、ユーザープロフィールが無効になります。

名と姓は必須ではありませんが、役割をすばやく識別するために推奨されます。

電子メールフィールドはオプションですが、アラート通知にリンクされています。

**必須項目:** ユーザー名、パスワード。

### ライン

ラインは、デバイスを整理（グループ化）するために使用されます。

The screenshot shows a line management form with the following fields and controls:

- ライン: [ ]
- 名前: [ JP1 ]
- 場所: [ JP1 ]
- 色: [ rgb(241, 234, 127) ]
- 取消: [button]
- 保存: [button]

**名前**は、デバイスが接続される回線の名前です。それは具体的である必要がありますが、普遍的であり、複数の場所/建物の複数のデバイスに使用できます。

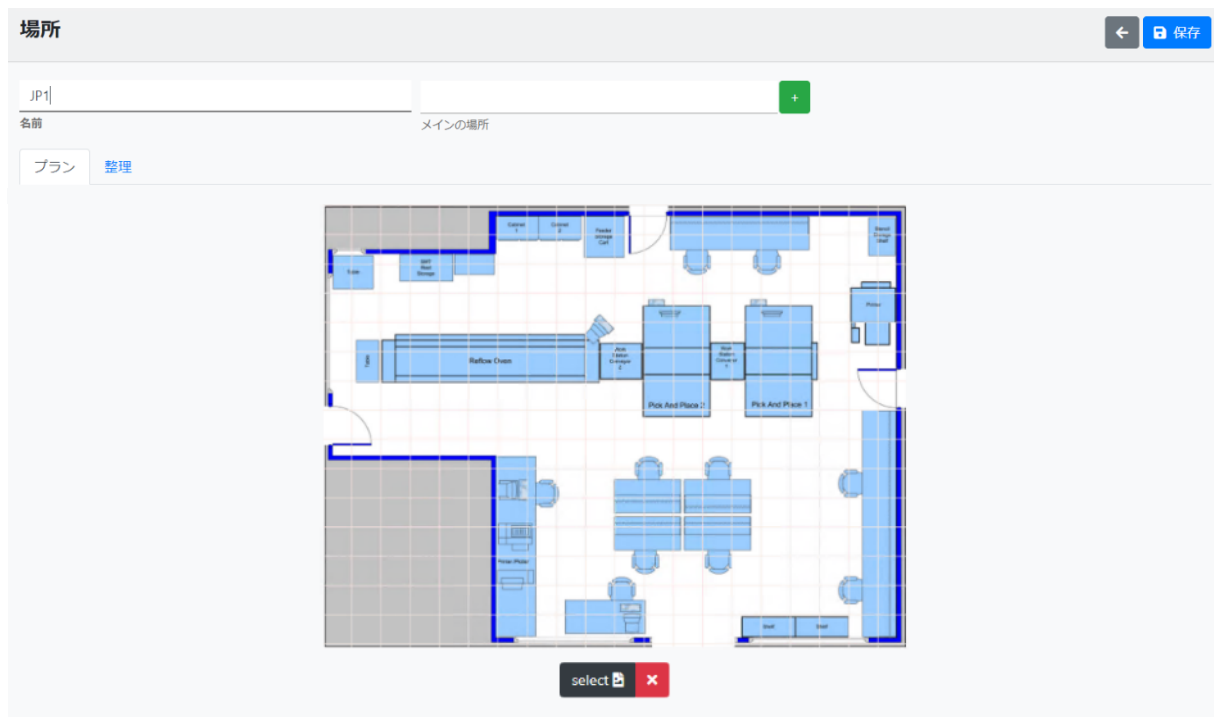
**場所**は、ライン/デバイスが配置されている場所です。このフィールドは必須ではありませんが、デバイスがインストールされている場所を識別するために推奨されます。

**色**は、レイアウト上にあるデバイスアイコンの色です。

**必須項目:** 名前

## 場所

場所は、施設のレイアウトとデバイスが配置されている場所を説明および表示するために使用されます。



名前は場所名です。

メインの場所は、このロケーション（階層）を含む場所です。標準のオートコンプリート入力フィールドを使用して選択するか、新しい場所ボタンを使用して直接作成します。

プランは、施設レイアウトのビットマップイメージです。レイアウトは、デバイスが建物、フロア、ライン内のどこにあるかを識別するのに役立ちます。プランはダッシュボードにリンクされており、デバイスにすばやくアクセスできます。

必須項目: 名前

場所によって定義されたシステムレイアウトは必須ではありませんが、SMP Manager 内にいくつかの追加機能を提供します。非常に単純な場合もあり、いくつかの場所のみを含み、複雑な階層構造にまで及びます。場所の階層の一例は (システム ダッシュボード上):

## 場所のステータス



📍 Zagreb

- 📍 Office
- 📍 Storage

📍 Vorbion

- 📍 Server

計画のある場所はリンクとして表示されます。リンクをクリックすると、ライブデバイスシンボルを含むプランで構成される場所のライブビューが開きます。

### デバイスのレイアウト

ロケーションフォームには、デバイスシンボルのレイアウトに使用される整理パネルもあります。

プラン 整理

場所

デバイス

- SMT (BC1004000003)
- Printer (E41004800103)
- BT Ionizer (E41004800102)
- Burn In (E41004181302)
- Calibration (E31004000104)
- Burn-In (E31004000102)
- SMT Line (E91004000004)
- Touch-Up (E31004173204)
- Programming (E31004000105)
- Pick & Place #2 (E31004000101)
- Assembly (E31004000100)
- Test (BC3621000001)
- Pick & Place (E41004800101)

この機能を使用するには、場所にすでに計画があり、デバイスが割り当てられている必要があります。(前述の [場所] → [ライン] → [デバイスの関連付け] を使用)

左側のサイドバーには、割り当てられたデバイスのリストが含まれています。すでに配置されているデバイスは、太字で示されています。

プランにデバイスを配置するには、左側のサイドバーからデバイス名をプランの目的の位置にドラッグアンドドロップします。

マウスホイールを使用して平面図を拡大・縮小できます。デバイスシンボルを並べ替えることもできます。シンボルを移動するには、別の場所にドラッグドロップするだけです。

デバイスシンボルをクリックすると、上の図に示すように、基本的なデバイス情報がポップアップで表示されます。

### 重要！

場所プランを使用したすべての操作は保存する必要があります。SMP Manager は、標準の「未保存の変更」プロンプトを表示しません。

## デバイス

デバイスはメインの SMP エンティティであり、SCS モニターを表します。

The screenshot displays the configuration interface for a device. At the top, there are navigation buttons (back, save, close) and a title 'デバイス'. Below this, the device name 'EM' and serial number 'シリアル: E41004190401' are shown, along with a green 'アクティブ' (Active) status indicator. A search bar contains 'EM' and a dropdown menu shows 'JP1' with a green plus button. The '構成' (Configuration) section is divided into two columns. The left column includes: 'アラーム' (Alarm) set to 1000, '静電圧の範囲 (V)' (Static voltage range) set to 81.5, 'ESDの限界 (dBµV)' (ESD limit) set to 100, and '静電圧の限界 (V)' (Static voltage limit) set to 1. The right column includes: '警告' (Warning) set to 90, 'ESDの警告 (dBµV)' (ESD warning) set to 800, and '静電圧の警告 (V)' (Static voltage warning) set to 1. A '距離 (インチ)' (Distance) field is also present at the bottom left.

デバイスは、SMP 検出メカニズムによって自動的に作成され、前述のようにシリアル番号によって識別されます。したがって、SMP Manager で新しいデバイスを作成したり、センサーのタイプやシリアルを変更したりすることはできません。デバイスリストビューに削除ボタンがありますが、既存のデバイスを削除することはできません。

**名前**はデバイス名です。名前はオプションですが、検索やフィルタリングだけでなく、情報提供の目的にも便利です。名前のないデバイスは、シリアル番号のみで表示されます。

**ライン**は、デバイスが属するラインです。これはオプションで、前の章で詳しく説明されています。

### 構成

SMP Manager は、デバイスをリアルタイムで (再) 構成するためにも使用されます。SCS モニター構成は通常、一連の制限 (アラームと警告用) で構成されます。**WS Aware モニター** の構成には、2 つの「特別な」設定も含まれています。**Hide Terminal 1** と **Hide Terminal 2** です。これらの設定は、SMP での動作を制御します。関連チャネルはリアルタイムビューで表示されず、関連チャネルのアラームは生成されません。

デバイスフォームには、参照用に利用可能な（適用可能な）デバイス制限を示す青色の情報ボタンも含まれています。

利用可能なデバイスの制限		
WS Aware	リミット	
	Min	Max
人体電圧の限界 (V)	0.0	2.0
人体抵抗の限界 (MΩ)	2.0	35.0
金属接地インピーダンスの限界 (Ω)	1.0	20.0
EMI 電圧の限界 (mV)	1.0	1,000.0
Soft Ground Resistance Limit (MΩ)	100.0	1,000.0

基本的な SMP システムには、多くの場合、同じタイプの複数のモニターが含まれます。多くの場合、これらのモニターは同じ構成パラメーターを使用します。構成パラメーターのメンテナンスを支援し、一連の値を何度も入力する必要をなくすために、SMP Manager には構成のコピー機能があります。これは非常に簡単なプロセスです。

- 既存のデバイス構成をコピーする
- 同じタイプの 1 つまたは複数のデバイスに設定を貼り付ける

デバイス構成のコピーは、デバイス フォームの  コピーボタンをクリックするか、デバイスリストビューのコマンドメニューから**構成のコピー**オプションを選択して行います。

名前	シリアル	デバイスのタイプ	ライ
EM	E41004190401	EM Awareモニター	JP
test	22	Ion Pro ベンチトップ イオナイザー	TES
WS	E31004190413	WS Aware モニター	JP

既存の構成がコピーされると、他の既存のデバイスに適用できます。コピーした構成をデバイスに複製するには、上に表示されているコマンドのメニューにある **構成を貼り付け**コマンドを使用します。コピーした構成を複数のデバイスに複製するには、リストビューの選択メニューから使用できます。





**重要！**

デバイス構成は機密性の高い機能です。すべての構成変更はすぐにデバイスに送信されて適用されるため、その動作が変更されます。

## 解決

解決は、アラームに使用できるトラブルシューティングのヒントのセットです。この機能については、後の章で実際に説明します。SMP Manager には、利用可能な SMP の「問題」のリストが含まれており、トラブルシューティングのヒントを編集できます。

### Solution ✕

バランス電圧

問題名

解決	+ Add
SCS EM Aware モニターを見つけます。	消去
このモニターとペアリングされたイオナイザーの電源が入っていることを確認します。	消去
イオナイザーが EM Aware に対するモニタリングの仕様と要件を満たしているか確認します。	消去
EM Aware アンテナがイオナイザーの直接の気流内に配置されているか確認します。	消去
イオナイザーの仕様で +/-10V 未満のバランス レベルが必要な場合は、エミッター、グリルを清掃し、エアフローを強くします。	消去
イオナイザーの仕様で +/-10V を超えるバランスレベルが必要な場合は、スペックシートを参照して制限を調整するか、弊社までお問い合わせください。	消去

このフォームは以下を提供します。

- 問題名の編集
- トラブルシューティングのヒントを追加または削除する
- トラブルシューティングのヒントのテキストの編集

## ダッシュボード

システムダッシュボード (SMP Manager の「ホーム」画面) には、左側のサイドバーの上部にあるタイトルをクリックしていつでもアクセスできます。システムに関する情報を提供するウィジェットで構成され、リアルタイムで更新されます。

The screenshot shows a dashboard with two main sections. On the left, there is a '場所のステータス' (Location Status) widget with a search bar containing 'TEST'. On the right, there is an 'アクティブなアラーム' (Active Alarms) widget. It features a dropdown menu set to '古い順' (Oldest first) and a 'ページサイズ' (Page Size) set to 20. Below these are two active alarm entries, each with a red header bar and a timestamp of '2022/12/22 15:52'. The first entry is for '静電圧 on EM Awareモニター EM' with a value of '160.40 V'. The second entry is for 'ESD電圧 on EM Awareモニター EM' with a value of '28.16 V'. Each entry has icons for refresh, close, and other actions.

場所のステータスウィジェットは、場所の階層をライブステータスとともに表示します。


システムをロケーション階層に編成する方法については、前のセクションで詳しく説明しました。「閲覧可能」(計画がある) の場所は、青色のリンクで表されます。リンクをクリックすると、ライブで場所のビューが開きます。

このウィジェットには、「位置ステータス」もリアルタイムで表示されます。ロケーションステータスは、チャンネルタイプ別にグループ化されたすべてのロケーションデバイスの累積ステータスとして定義されます。ステータスは色付きのタグで表されます。テキストは省略されたチャンネルタイプ名で、色はステータスを示します。チャンネルの状態とステータスについては、後の章で詳しく説明します。

### 情報！

定義上、親の場所には、その子に含まれるすべてのデバイスが「含まれます」。したがって、場所に直接割り当てられたデバイスがない場合でも、場所のステータスが表示されます。

アクティブなアラームウィジェットは、アクティブなアラームのリストと基本情報を表示し、アラームの管理オプションを提供します。システム障害とアラーム機能については、専用の章で後述します。

アラームの切り替えボタン  は、アクティブなアラームリストの表示のオンとオフを切り替えます。

## リアルタイムモニタリング

システムの状態をリアルタイムでモニタリングすることは、SMP のコア機能の 1 つです。SMP Manager は、個々のデバイスの状態と全体的な場所の状態に関するさまざまなビューを提供します。NG 状態とアラームに関する情報も収集され、リアルタイムで表示されます。詳細については、次の章で説明します。

SMP Backend は、接続されているすべてのデバイスから毎秒状態を収集し、SMP Manager はそれらをリアルタイムで表示および監視するための多彩な機能を提供します。SMP Manager には、後で詳しく説明する状態の履歴を表示するための多彩なレポート機能もあります。

### 定義:

各 SCS デバイスは複数の値を測定します。これらの値はチャンネルと呼ばれます。

各チャンネルには、値 (数値、物理単位付き) とステータスがあります。

ステータスは SMP Manager で色で表され、次のいずれかになります。

- ・通常 (操作可能) - 緑
- ・アラーム (NG) - 赤
- ・警告 - 黄
- ・切断 - 黒
- ・利用不可 - 白

たとえば、WS Aware モニター には、値がボルト (V) の オペレーター の人体電圧チャンネルがあります。

デバイスタイプによっては、複数のオペレーターが接続できるため、同じタイプのチャンネルが複数ある場合があります。(オペレーター人体電圧 1、オペレーター人体電圧 2 など)

## アクティブなデバイスのステータス

ライブサイドバーメニューの下のステータス項目は、すべての（または選択した）デバイスのリアルタイムステータスを示します。



前述のように、標準機能（フィルタリング、並べ替え）を備えた標準リストビューで表示されます。このリストはリアルタイムで更新され、すべてのデバイスのチャンネルタイプ別にステータスが表示されます。

### 情報！

デバイスに同じタイプのチャンネルが複数ある場合、SMP Manager はそれらすべてのステータスを組み合わせて表示します。複合ステータスは、常に最も重要なステータスです。

- 赤
- 黄
- 緑
- 黒

たとえば、いずれかのチャンネルが赤の場合、ステータスは赤として表示されます。赤または黄色のチャンネルがない場合は緑であり、すべてのチャンネルが黒の場合にのみ黒になります。


デフォルトのフィルターにはすべてのアクティブなデバイスが表示されますが、共通の UI を使用して変更できます。



ライブデバイスリストでは、左側の編集ボタンを使用してデバイスの編集（および構成）を行うこともできます。デバイスのライブビュー（デバイス名はハイパーリンク）への切り替え、または場所のライブビュー（ロケーションに計画がある場合、場所名はハイパーリンク）への切り替えが可能です。


ステータスは省略されたチャンネルタイプ名で表されますが、フルネームを表示するチェックボックスを使用してフルネームを表示することもできます。



デバイス	ライン	場所	状態	フルネームを表示
EM EM Awareモニター	JP1	JP1	SV ESD BALV DEC	
WS WS Awareモニター	JP1	JP1	BV BR MG EMI SG	


最後に、問題が発生したすべてのデバイスには、ステータスの左側に追加のトラブルシューティングボタン  があります。トラブルシューティングについては、後で詳しく説明します。






## 場所のステータス

以前に説明した場所のライブステータスは、ダッシュボードに表示されます。

 JP1

-  Office
-  Storage

 Test

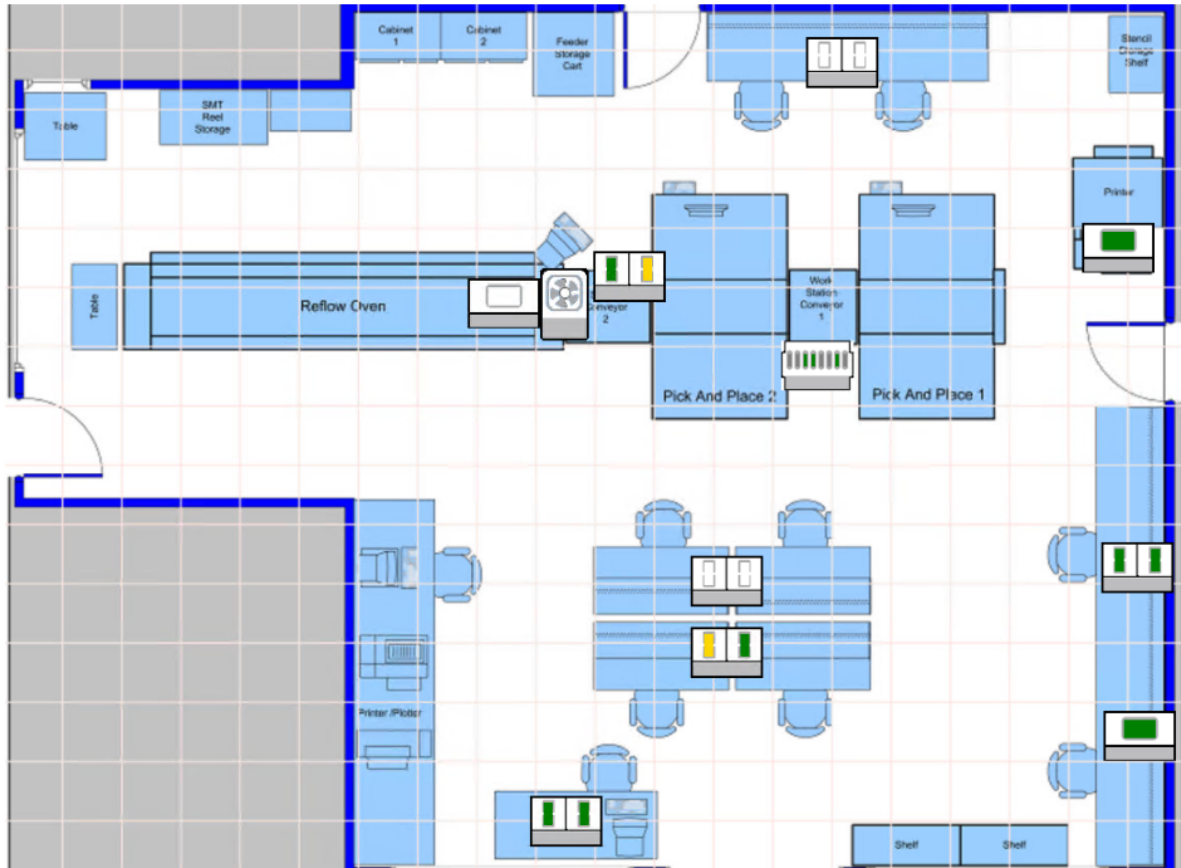
-  Server    

計画のある場所は、場所のライブビュー（以下を参照）に移動するハイパーリンクとして機能し、表示されるステータスは、場所内のすべてのデバイスの特定のタイプのすべてのチャンネルのステータスを組み合わせたものです。チャンネルの組み合わせについては、前の章で既に説明しました。赤のステータスは、その場所または含まれる場所にあるデバイスの一部のチャンネルが赤であることを意味します。

## 場所のライブビュー

場所に関連するデバイスが配置されたプランがある場合、ライブビューが有効になります。

### 場所 JP1 状態



プランは「ズーム可能」(マウスホイールを使用)で、デバイスシンボルが表示され、(結合された)状態がリアルタイムで更新されます。

デバイスシンボルをクリックすると、詳細なデバイスステータスポップアップフォームが表示されます(これもリアルタイムで更新されます)。

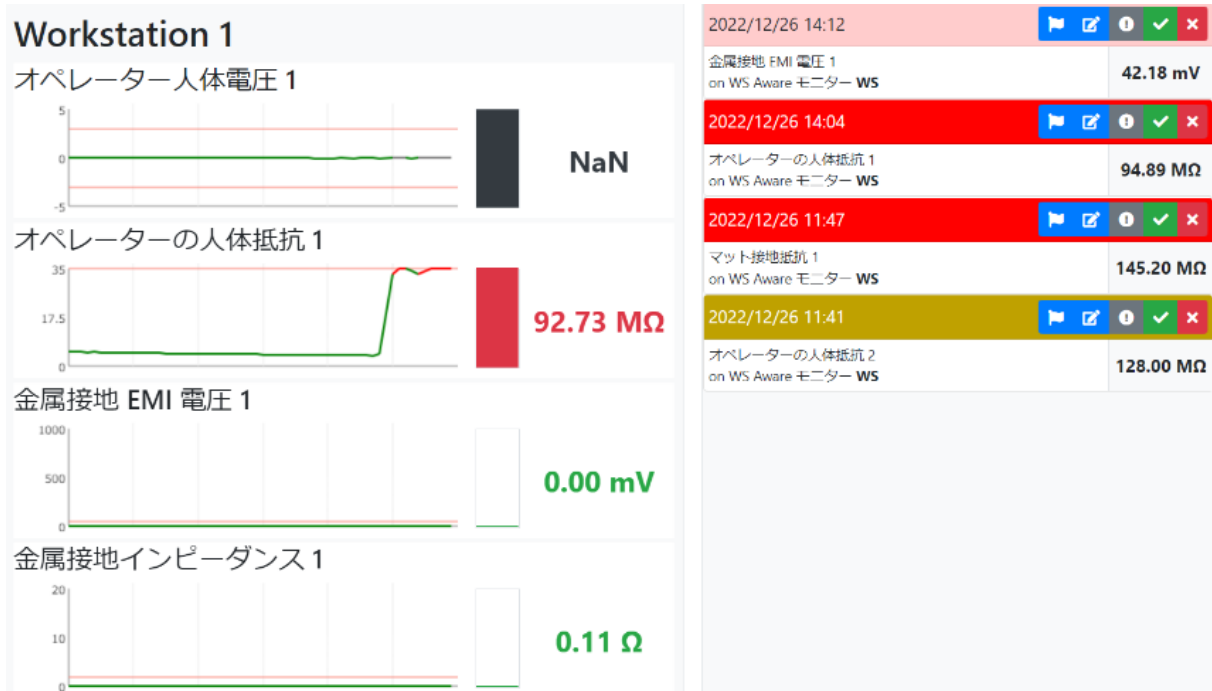
WS Aware モニター WS

Workstation 1		Workstation 2	
オペレーター人体電圧 1	0.00 V	オペレーター人体電圧 2	NaN
オペレーターの人体抵抗 1	11.19 MΩ	オペレーターの人体抵抗 2	128.00 MΩ
金属接地 EMI 電圧 1	0.00 mV	金属接地 EMI 電圧 2	0.00 mV
金属接地インピーダンス 1	0.07 Ω	金属接地インピーダンス 2	0.00 Ω
マット接地抵抗 1	0.00 MΩ	マット接地抵抗 2	0.00 MΩ


デバイス名は、デバイスのライブビューを開くハイパーリンクです。

## デバイスのライブビュー

主な SMP の機能は、アクティブなデバイスのリアルタイムビューを提供することです。



このビューは、すべてのデバイスチャンネル（ステータス、値）とそのデバイスの最近のアラームのリストで構成されます。


直近のアラームリストには、アクティブなアラームと処理されたアラームの両方が含まれる場合があります。詳細については後の章で説明します。  ボタンを使用して、最近のアラームリストの表示を切り替えることもできます。

ステータスビューには、ワークステーションごとにグループ化されたすべてのデバイスチャンネルが表示されます。デフォルトでは、各チャンネルはグラフ、ゲージ、値とともに表示され、リアルタイムで更新されます。

グラフは過去 1 分間（つまり、最新の 60 個の値）を示し、色を使用してステータスを示し、構成された制限（アラームと警告）を示す線を示します。


ゲージは、最新の値の相対的な大きさを示し、色を使用してステータスを示します。

値（数値）は物理単位で表示され、色を使用してステータスを示します。

 ボタンをクリックすると、ライブビューの場所に移動します。（利用可能な場合）

 ボタンをクリックすると、デフォルトの履歴レポートに移動します。利用可能なレポートと関連機能については、後の章で説明します。


## ディスプレイモード

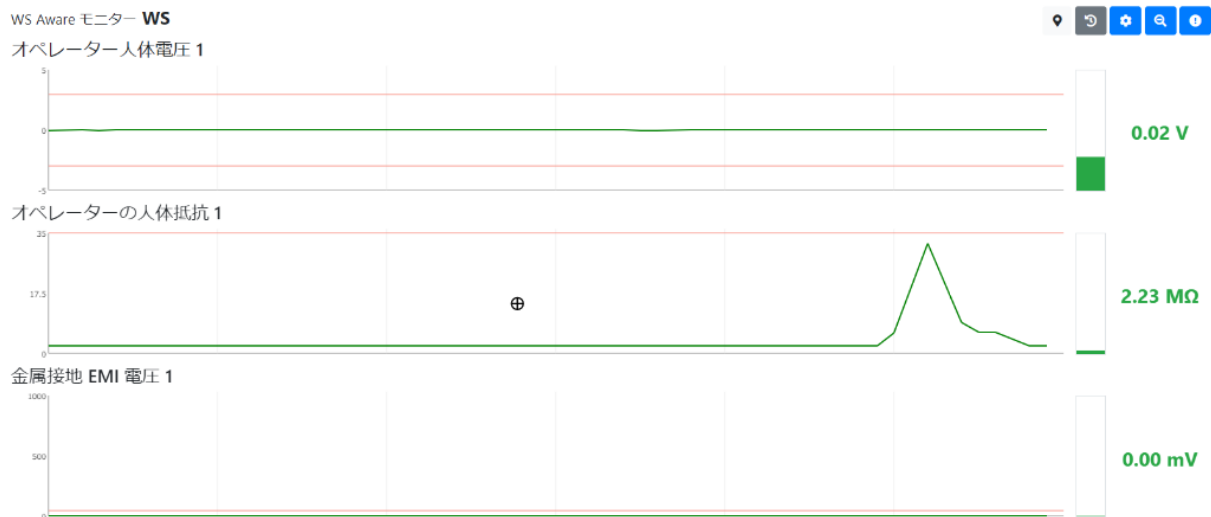
デバイスのライブビューでは、他に 2 つの異なる表示モードが可能です。コンパクト表示モードではグラフが表示されず、このボタン  でビューが切り替わります。(直近のアラームがオフになっている状態で表示されます)

WS Aware モニター WS

Workstation 1		Workstation 2	
オペレーター人体電圧 1	0.04 V	オペレーター人体電圧 2	NaN
オペレーターの人体抵抗 1	2.39 MΩ	オペレーターの人体抵抗 2	128.00 MΩ
金属接地 EMI 電圧 1	0.00 mV	金属接地 EMI 電圧 2	0.00 mV
金属接地インピーダンス 1	0.17 Ω	金属接地インピーダンス 2	0.00 Ω
マット接地抵抗 1	0.50 MΩ	マット接地抵抗 2	0.00 MΩ

このビューもリアルタイムで更新され、スペースが節約され、通常はすべてのチャンネルが画面に収まるため便利です。

 ボタンをクリックすると、**拡大表示**が可能です。



**拡大表示**では、常に各チャンネルが全幅で表示されます。主に、大型モニターで遠くから見るように設計されています。





ボタンをクリックして、拡大表示中に表示するチャンネルを選択することもできます。

チャンネル✕

可視

- オペレーター人体電圧 1
- オペレーターの人体抵抗 1
- 金属接地 EMI 電圧 1
- 金属接地インピーダンス 1
- マット接地抵抗 1
- オペレーター人体電圧 2
- オペレーターの人体抵抗 2
- 金属接地 EMI 電圧 2
- 金属接地インピーダンス 2
- マット接地抵抗 2

取消表示

## NG とアラーム

発生した問題に関する通知は、リアルタイム センサー監視システムの重要な部分です。SMP は、この目的のためにアラームと NG の概念を使用します。

### 定義:

デバイス チャンネルで問題 (アラームまたは警告) が発生するたびに、SMP は NG を生成して保存します。

問題が引き続き存在する場合、SMP は新しい NG を作成しません。その間隔が延長されるだけです。各障害には秒単位の間隔があります。「個別」NG イベントの間隔は 1 です。

障害は一定期間にわたる連続した一連の問題を表すため、単一の値で表すことはできません。代わりに、障害は 3 つの標準的な統計的尺度で表されます: 問題期間中の最小値、最大値、および平均値 (個別の障害は、**最小値**、**最大値**、**平均値**がすべて、問題を引き起こした単一の値に等しくなります)。

警告に対しても障害が生成され、問題が警告からアラームにエスカレートした場合、SMP は新しい NG を作成せず、そのレベルをエスカレートするだけです。

一方、アラームは、問題が発生したという通知です。これは、**問題が最初に発生したときにのみアラームが生成され、記録されることを意味します**。つまり、デバイス チャンネルで初めて問題が発生するたびに、SMP は障害とアラームを生成します。同じチャンネルで問題が再び発生した場合、SMP は新しいアラームを作成せず、対応する障害を記録するだけです。したがって、**アラームには値があります**。これは、**問題の状態を引き起こした初期チャンネル値**です。

アラームと NG の間には論理的な関連付けがあります。チャンネルに記録されたすべての障害は、対応するアラームに関連付けられています。

アラームは、SMP Manager で**処理されるまでアクティブのまま**です。オペレーターによって処理されなかったアラームは、1 日の終わりに SMP によって**期限切れ**になります (自動的に「処理」さ

れます)。

たとえば、人体電圧 1 チャンネルに NG があった場合、SMP は対応するアラームと問題を作成し、人体電圧 1 の将来の NG を作成されたアラームに関連付けます。アラームが処理されると、その後発生する最初の人体電圧 1 の NG によって新しいアラームが作成されます。

アラームには**重大度**の概念もあります。重大度は、関連するすべての NG の累積期間として定義されます。SMP では、重大度レベルが色で表されます (色が濃いほど重大度が高いことを示します)。

## アクティブなアラーム

メインダッシュボードには、アクティブなアラームリストが含まれています。

アクティブなアラーム		古い順
ページサイズ	20	
2022/12/26 14:12	金属接地 EMI 電圧 1 on WS Aware モニター WS	42.18 mV
2022/12/26 14:04	オペレーターの人体抵抗 1 on WS Aware モニター WS	94.89 MΩ
2022/12/26 11:47	マット接地抵抗 1 on WS Aware モニター WS	145.20 MΩ
2022/12/26 11:41	オペレーターの人体抵抗 2 on WS Aware モニター WS	128.00 MΩ
2022/12/26 11:41	静電圧 on EM Aware モニター EM	-1,000.00 V
2022/12/26 11:41	ESD電圧 on EM Aware モニター EM	31.65 V

これは標準的なリストビューで、時系列 (デフォルト) またはアラームの重大度順に並べることができます。

このリストには、**アクティブなアラームに関する情報のみ**が含まれます。各アラームは、発生時刻 (タイトルバー)、重大度 (タイトルバーの色)、NG の種類、デバイスの種類、名前、値で表されます。タイトルバーには、標準のアクションボタンを備えたコマンドバーも含まれています。

アラームリストの項目をクリックすると、関連する NG の詳細なリストが開きます。

オペレーターの人体抵抗の NG WS <span style="float: right;">✕</span>				
表示中 1-10 の 14 faults		合計期間: 42 s		
<< < 1 2 > >>				
スタート	終了	分	最大	平均
14:29:42	14:29:44	103.52 MΩ	106.63 MΩ	105.35 MΩ
14:29:28	14:29:31	64.70 MΩ	116.93 MΩ	89.14 MΩ
14:27:03	14:27:04	79.07 MΩ	84.11 MΩ	81.59 MΩ
14:23:09	14:23:09	113.34 MΩ	113.34 MΩ	113.34 MΩ
14:21:38	14:21:38	36.26 MΩ	36.26 MΩ	36.26 MΩ
14:21:32	14:21:35	40.18 MΩ	92.73 MΩ	55.41 MΩ
14:21:27	14:21:28	48.00 MΩ	52.71 MΩ	50.36 MΩ
14:19:37	14:19:41	35.70 MΩ	40.57 MΩ	37.09 MΩ
14:14:16	14:14:22	85.78 MΩ	123.31 MΩ	97.68 MΩ
14:13:47	14:13:47	121.02 MΩ	121.02 MΩ	121.02 MΩ
<< < 1 2 > >>				

デバイス名はハイパーリンクであることに注意してください。これは、アラームが発生したデバイスのライブビューをチェックアウトする（その現在のステータスをチェックする）簡単な方法です。


アクティブなアラームリストの各項目には、次のコマンドを使用できます。

**解決** (✓) - アラームを処理し、解決済みとしてマークします。アラームが閉じられ、アクティブなアラーム リストから削除されます。同じチャンネルで今後問題が発生すると、新しいアラームが生成されます。

**無視** (✕) - アラームを処理し、無視としてマークします。アラームが閉じられ、アクティブなアラーム リストから削除されます。同じチャンネルで今後問題が発生すると、新しいアラームが生成されます。

**重要としてマーク** (i) - アラームを重要としてマークします。これは実際にはトグルボタンであり、重要としてマークされたアラームは、もう一度クリックすることでマークを外すことができます。重要なアラームの場合、ボタンの色がグレーから黄色に変わります。この機能は、特定のアラームに特別な処理（即時アクション、問題分析など）が必要であることを施設管理者が担当オペレーターに示すことができるように設計されています。

アラームが重要としてマークされている場合、単純な処理（解決、無視）は許可されません。常にコメントが必要で、以下で説明するコメントを表示します。

コメント (  ) ボタンで、アラームのコメントを入力できます。

Operator Body Resistance  
の NG WS 94.89 MΩ

Occured on: 2022/12/26 14:04

Comments


無視としてマーク

解決済みとしてマーク

保存

取消

このフォームの主な目的は、アラームのコメントを入力および編集することですが、アラームの処理（無視または解決）にも使用できます。

トラブルシューティング (  ) ボタンは、問題のトラブルシューティングのヒントをウィザードのような形式で表示します。



オペレーターの抵抗

WS Aware Monitor WS



問題解決のヒント:

SCS WS Aware が施設のアースに正しく接続されているかどうかを確認します。

次のヒント ->

すべてのヒントを表示

無視としてマーク

解決済みとしてマーク

このフォームには、ヒントを 1 つずつ表示するオプション（オペレーターが潜在的な問題を 1 つずつチェックして解決することが想定されているため標準）または使用可能なすべてのヒントをすぐに表示するオプションがあります。

トラブルシューティングのヒントの維持は、上記の管理で説明されています。SMP には事前定義された既定のヒントセットが既に付属していますが、それらのヒントを自由に追加、削除、変更することができます。

最後に、トラブルシューティングウィザードには、アラームを処理するためのボタン（無視または解決）も含まれています。

SMP Manager には、追加のアクティブアラームビューが含まれています - サイドバーの [ライブ] メニューの下にある [アクティブアラーム]:

アクティブなアラーム

表示中 1-6 の 6

ページサイズ 20

時間	アラーム	デバイス	デバイスのタイプ	重大度	評価する
2022/12/26 14:12	金属接地 EMI 電圧 1	WS	WS Aware モニター	アラーム-0	42.18 mV
<ul style="list-style-type: none"> <li>📁 トラブルシューティング</li> <li>🔧 管理</li> <li>🔴 重要</li> <li>✅ 解決</li> <li>✖ 無視する</li> </ul>	オペレーターの人体抵抗 1	WS	WS Aware モニター	アラーム-4	94.89 MΩ
	マット接地抵抗 1	WS	WS Aware モニター	アラーム-3	145.20 MΩ
	オペレーターの人体抵抗 2	WS	WS Aware モニター	警告-5	128.00 MΩ
	静電圧	EM	EM Aware モニター	アラーム-5	-1,000.00 V
2022/12/26 11:41	ESD電圧	EM	EM Aware モニター	アラーム-5	31.65 V

ページサイズ 20

このビューは、ダッシュボードのアクティブアラームウィジェットが提供するすべての機能を提供しますが、追加の標準機能（フィルタリング、並べ替え、ページ付け）を備えた標準のリストビューでもあります。

上記のアラームコマンドは、左側のアクションボタンから呼び出されます。テーブルの行をクリックすると、関連する障害の詳細なリストが開きます。デバイス名は、デバイスのライブビューを開くハイパーリンクです。

## デバイスの直近のアラーム

デバイスのライブビューの直近のアラームリストには、そのデバイスで発生した直近のアラームのリストが表示されます。

直近のアラーム	
2022/12/26 11:41	
静電圧 on EM Awareモニター EM	-1,000.00 V
2022/12/26 11:41	
ESD電圧 on EM Awareモニター EM	31.65 V
2022/12/22 15:52	
静電圧 on EM Awareモニター EM	160.40 V
2022/12/22 15:52	
ESD電圧 on EM Awareモニター EM	28.16 V
2022/12/22 13:40	
ESD電圧 on EM Awareモニター EM	1,000.00 V
2022/12/22 12:13	
静電圧 on EM Awareモニター EM	-1,000.00 V
2022/12/22 11:47	
静電圧 on EM Awareモニター EM	1,000.00 V
2022/12/22 11:47	
ESD電圧	140.38 V

リストは時系列（最新のものから古いものへ）ですが、アクティブなアラームが常に最初に表示されます。

直近のアラームリストは、アクティブなアラームリストと同じ機能を提供しますが、処理されたアラームには使用可能なアクションボタンがありません。

## レポート

SMP は時間の経過とともに大量のデータを収集します。その主な機能の 1 つは、そのデータをオンデマンドで確認できることです。SMP Manager は、データ履歴を確認して標準ドキュメントにエクスポートするために、いくつかのレポートを実装しています。

## デバイスの履歴

デバイスの履歴は、任意の期間における任意のデバイスの状態履歴の詳細や集約された洞察を提供する、最も基本的な SMP レポートです。

前に説明したように、デバイスのライブページからデバイスの履歴を直接開くことができます。

時間	BV1	BR1	EM1	MG1	EM3	MG3	BV2	BR2
12:00:00 AM	-9.94 (-9.99 → -9.89) V	8.82 (8.19 → 9.27) MΩ	0.00 (0.00 → 0.00) mV	8.45 (7.95 → 8.90) Ω	0.00 (0.00 → 0.00) mV	9.66 (9.45 → 9.84) Ω	6.75 (6.62 → 6.90) V	9.37 (8.80 → 9.96) MΩ
12:01:00 AM	-9.94 (-10.00 → -9.89) V	8.75 (7.83 → 9.45) MΩ	0.00 (0.00 → 0.00) mV	8.33 (7.84 → 8.85) Ω	0.00 (0.00 → 0.00) mV	9.46 (8.93 → 10.00) Ω	6.60 (6.56 → 6.66) V	8.69 (8.34 → 9.11) MΩ
12:02:00 AM	-9.91 (-9.97 → -9.85) V	7.93 (7.39 → 8.65) MΩ	0.00 (0.00 → 0.00) mV	8.29 (8.06 → 8.48) Ω	0.00 (0.00 → 0.00) mV	9.88 (9.63 → 10.00) Ω	6.50 (6.44 → 6.59) V	8.45 (7.83 → 9.11) MΩ
12:03:00 AM	-9.93 (-9.99 → -9.88) V	7.88 (7.49 → 8.54) MΩ	0.00 (0.00 → 0.00) mV	8.28 (7.81 → 8.53) Ω	0.00 (0.00 → 0.00) mV	10.99 (9.68 → 74.63) Ω	9.18 (6.36 → 19.82) V	8.29 (7.64 → 8.86) MΩ
12:04:00 AM	-9.97 (-10.00 → -9.95) V	7.92 (7.43 → 8.67) MΩ	0.00 (0.00 → 0.00) mV	8.11 (7.57 → 8.59) Ω	0.00 (0.00 → 0.00) mV	9.92 (9.74 → 10.00) Ω	9.96 (9.92 → 10.00) V	7.44 (7.01 → 7.91) MΩ
12:05:00 AM	-9.91 (-10.00 → -9.84) V	7.69 (7.31 → 8.09) MΩ	0.00 (0.00 → 0.00) mV	7.74 (7.38 → 8.26) Ω	0.00 (0.00 → 0.00) mV	9.91 (9.69 → 10.00) Ω	9.91 (9.85 → 9.96) V	7.68 (7.18 → 8.07) MΩ
12:06:00 AM	-9.87 (-9.94 → -9.82) V	7.98 (7.20 → 8.58) MΩ	0.00 (0.00 → 0.00) mV	7.25 (6.91 → 7.52) Ω	0.00 (0.00 → 0.00) mV	9.81 (9.48 → 10.00) Ω	9.92 (9.87 → 9.98) V	7.81 (6.89 → 8.72) MΩ
12:07:00 AM	-9.97 (-10.00 → -9.95) V	7.92 (7.54 → 8.53) MΩ	0.00 (0.00 → 0.00) mV	7.59 (7.13 → 8.01) Ω	0.00 (0.00 → 0.00) mV	11.39 (9.43 → 103.83) Ω	9.91 (9.87 → 9.95) V	8.85 (8.42 → 9.68) MΩ
12:08:00 AM	6.41 (-9.95 → -7.32) V	9.39 (8.54 → 10.00) MΩ	0.00 (0.00 → 0.00) mV	10.73 (7.93 → 124.27) Ω	0.00 (0.00 → 0.00) mV	9.88 (9.63 → 10.00) Ω	9.94 (9.89 → 9.99) V	9.22 (8.72 → 9.74) MΩ
12:09:00 AM	7.24 (7.18 → 7.31) V	9.21 (8.70 → 9.66) MΩ	0.00 (0.00 → 0.00) mV	9.77 (9.32 → 10.00) Ω	0.00 (0.00 → 0.00) mV	10.07 (9.32 → 29.35) Ω	9.96 (9.89 → 10.00) V	8.76 (8.05 → 9.54) MΩ
12:10:00 AM	7.20 (7.15 → 7.26) V	9.43 (8.97 → 9.86) MΩ	0.00 (0.00 → 0.00) mV	9.86 (9.51 → 10.00) Ω	0.00 (0.00 → 0.00) mV	9.65 (9.01 → 10.00) Ω	9.96 (9.91 → 10.00) V	8.05 (7.38 → 8.72) MΩ
12:11:00 AM	7.27 (7.24 → 7.33) V	9.50 (9.10 → 10.00) MΩ	0.00 (0.00 → 0.00) mV	9.78 (9.29 → 10.00) Ω	0.00 (0.00 → 0.00) mV	9.24 (9.04 → 9.64) Ω	9.89 (9.84 → 9.95) V	7.34 (6.20 → 8.27) MΩ
12:12:00 AM	7.26 (7.22 → 7.31) V	9.69 (9.23 → 10.00) MΩ	0.00 (0.00 → 0.00) mV	9.72 (9.37 → 10.00) Ω	0.00 (0.00 → 0.00) mV	9.82 (9.54 → 10.00) Ω	9.95 (9.90 → 10.00) V	7.21 (6.56 → 7.73) MΩ
12:13:00 AM	7.37 (7.29 → 7.45) V	9.79 (9.37 → 10.00) MΩ	0.00 (0.00 → 0.00) mV	9.86 (9.48 → 10.00) Ω	0.00 (0.00 → 0.00) mV	9.74 (9.48 → 10.00) Ω	9.93 (9.83 → 10.00) V	7.22 (6.66 → 7.55) MΩ
12:14:00 AM	7.46 (7.42 → 7.51) V	9.76 (9.33 → 10.00) MΩ	0.00 (0.00 → 0.00) mV	9.54 (9.07 → 9.91) Ω	0.00 (0.00 → 0.00) mV	10.11 (9.55 → 21.19) Ω	9.81 (9.76 → 9.89) V	6.49 (5.75 → 7.30) MΩ
12:15:00 AM	7.44 (7.39 → 7.48) V	9.27 (8.00 → 10.00) MΩ	0.00 (0.00 → 0.00) mV	8.80 (8.23 → 9.37) Ω	0.00 (0.00 → 0.00) mV	9.76 (9.56 → 9.93) Ω	9.82 (9.75 → 9.88) V	6.63 (5.84 → 7.05) MΩ
12:16:00 AM	7.47 (7.41 → 7.52) V	8.28 (7.83 → 8.73) MΩ	0.00 (0.00 → 0.00) mV	9.06 (8.38 → 9.37) Ω	0.00 (0.00 → 0.00) mV	9.62 (9.38 → 9.90) Ω	9.82 (9.77 → 9.88) V	5.58 (5.16 → 6.09) MΩ
12:17:00 AM	7.43 (7.38 → 7.49) V	8.22 (7.67 → 8.66) MΩ	0.00 (0.00 → 0.00) mV	8.36 (7.96 → 8.66) Ω	0.00 (0.00 → 0.00) mV	9.29 (8.91 → 9.68) Ω	9.88 (9.83 → 9.92) V	5.21 (4.54 → 5.86) MΩ

デフォルトでは、今日のデバイスの履歴が表形式で表示されます。レポートウィンドウは次の要素で構成されます。

1. デバイスの種類と名前
2. コマンドバー (ビューの変更、データのエクスポート、オプションの調整)
3. ブラウジングに使用するナビゲーションスライダー
4. 単位時間セレクター (表ビューの行またはグラフビューのポイントの時間単位)
5. 開始日時のラベル
6. ページサイズセレクター (テーブルビューの行数、グラフビューのデータポイント数)
7. データエリア

単位時間は次のとおりです。

- 日
- 時間
- 分

単位時間が秒の場合、履歴にはすべてのチャンネルの正確な値が表示されます。他のすべての時間単位では、1つの履歴アイテム (テーブルビューの行、グラフビューのデータポイント) が一連の値を表し、次を使用してテーブルビューで表されます。

### 平均(最小→最大)単位

ここで、表示された期間の最小、最大、平均が計算されます。

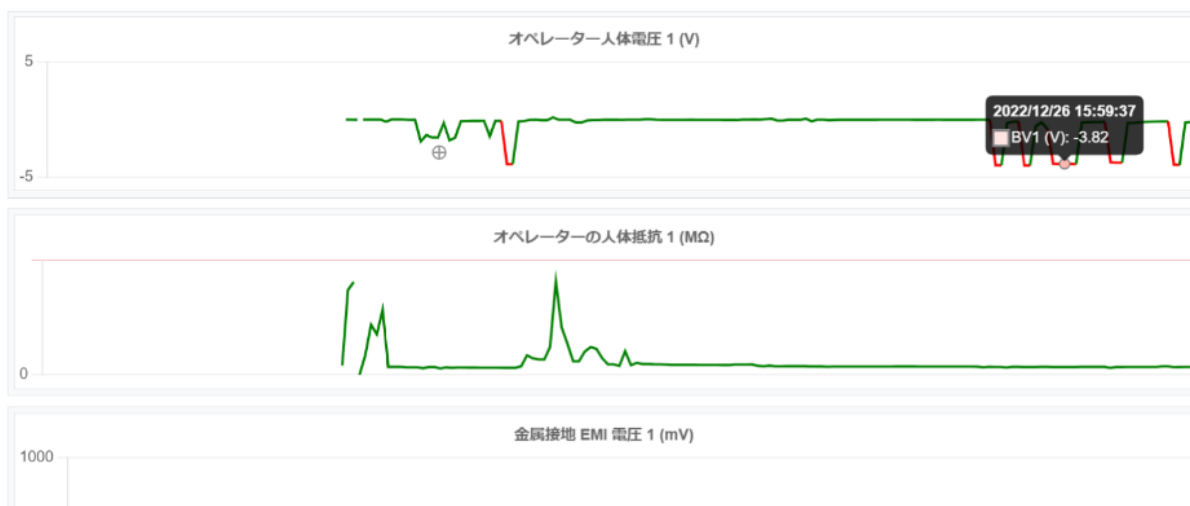
グラフビューでは、データポイントは平均値を表します。

チャンネルの状態は、標準的な方法で色で示されます。

## テーブルビュー

テーブルビューの機能については既に説明しました。使用できる追加機能は1つだけです。表の行をクリックすると、その期間が拡大されます。時間単位を変更してスクロールすることでも同じことができますが、これはより速く、より正確で、より便利です。

## グラフビュー



グラフビューは、時間の経過に伴う傾向をよりよく把握できますが、正確な値についてはあまり情報がありませんが、マウスポインターをデータポイントに合わせると、詳細情報（データポイントの正確な値）が表示されます。

グラフをクリックすると、表ビューの行をクリックするのと同様の「ズームイン」機能が実行されます。

## ステータスビュー

ステータスビューには、表示されている期間に収集されたデータの別のビューが表示されます。



ここでの各チャンネルは、考えられる各ステータスの相対的なパーセンテージで表されます。



## オプション

オプションのポップアップコントロールには、履歴期間と表示可能なチャンネルが表示されます。

履歴のオプション ✕

---

デバイス

間隔

チャンネル

間隔

<input type="radio"/> 今日	<input type="radio"/> 今週
<input type="radio"/> 昨日	<input type="radio"/> 今月
<input type="radio"/> 過去 3 日間	<input checked="" type="radio"/> カスタム

2022/12/26 00:00 📅

スタート時間

2022/12/26 16:16 📅

終了時間

取消 表示

期間は、最も一般的なオプションの 1 つにすばやく設定するか、**カスタム** 選択を使用して任意に選択できます。

また、レポートに表示される一部のチャンネルのみを選択することもできます。

履歴のオプション ✕

---

WS

デバイス

間隔

チャンネル

可視

<input type="checkbox"/> オペレーター人体電圧 1
<input type="checkbox"/> オペレーターの人体抵抗 1
<input checked="" type="checkbox"/> 金属接地 EMI 電圧 1
<input checked="" type="checkbox"/> 金属接地インピーダンス 1
<input type="checkbox"/> マット接地抵抗 1
<input type="checkbox"/> オペレーター人体電圧 2
<input checked="" type="checkbox"/> オペレーターの人体抵抗 2
<input checked="" type="checkbox"/> 金属接地 EMI 電圧 2
<input type="checkbox"/> 金属接地インピーダンス 2
<input type="checkbox"/> マット接地抵抗 2

取消 表示

Page 49 of 61

DESCO JAPAN株式会社

〒289-1143 千葉県八街市八街 い193-12 Tel : 043-309-4470 <http://www.descoasia.co.jp/>

## エクスポート

すべての SMP Manager レポートには、標準化されたエクスポート機能があります。SMP は、データを Excel またはテキスト形式 (CSV、タブ区切り) にエクスポートします。また、一部のレポートでは、PDF へのエクスポートも利用できます。

履歴レポートには次のオプションがあります。

エクスポート

History

ファイル名

最初の行の列名

Excel 2007+

フォーマット

出力に含める:

- テーブル
- 履歴 (秒)
- 履歴 (分)
- 履歴 (時間)
- 状態

取消 エクスポート

ここで使用できる形式は、Excel とテキストです。

### 情報！

SMP レポートには、非常に大量のデータが含まれる場合があります。エクスポート動作の制御は、システムオプションに実装されています。これについては、後の章で詳しく説明します。

## メニューを使用して履歴レポートにアクセスする

履歴レポートは、サイドバーのレポートメニューからも利用できます。唯一の違いは、その場合、SMP が最初にデバイスを要求することです。

履歴のオプション

ws

WS

間隔 チャンネル

間隔

- 今日
- 昨日
- 過去 3 日間
- 今週
- 今月
- カスタム

取消 表示

デバイスは、標準のオートコンプリート選択フィールドを使用して選択されます。

## デバイスの比較

SMP Manager は、履歴レポートのもう 1 つの便利な機能であるデバイスの比較を提供します。このレポートは、並べて表示された 1 つまたは複数の異なるデバイスからのチャンネルの選択で構成されます。

このレポートは、レポートサイドバーメニューのデバイス比較から呼び出され、最初にデバイス/チャンネルを選択する必要があります。



通常、最初にデバイスを選択してから、それぞれのチャンネルを選択するのが最も効率的です。

履歴比較レポートはデバイス履歴レポートと非常によく似ていますが、明らかな違いがいくつかあります。

また、テーブルとステータスビューでは、各チャンネルには (チャンネルタイプに加えて) デバイス名も表示されます。

グラフビューが異なるのは、すべてのデバイスのすべての類似チャンネルが、チャンネルごとに異なる色を使用して1つのグラフに表示されるためです。



**※注**

オプションを使用して表示されるチャンネルを変更し、さらにデバイスを追加したり、既存のデバイスを削除したりすることができます。

**NG の概要**

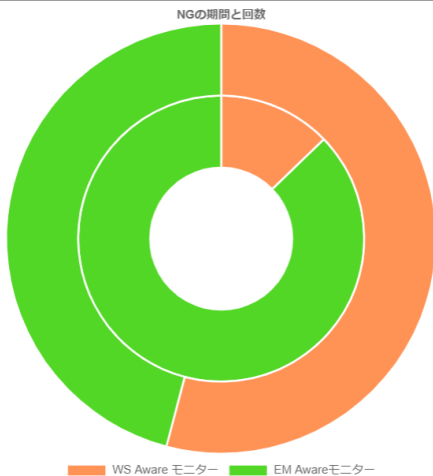
NG の概要は、SMP Manager で利用できる別のレポートです。一定期間にわたるシステム内の全体的な問題の概要を提供するため、分析に使用されます。

NGの概要

エクスポート PDF オプション

NGの総数: 298  
 NGの合計期間: 00:36:06

デバイスタイプ別のNG:



デバイスのタイプ	# NG	NGの期間
WS Aware モニター	38	00:19:32
EM Awareモニター	260	00:16:34

このレポートは、デバイスタイプごとにグループ化された NG の概要 (グラフと表として表示)、アラームタイプごとにグループ化された NG の概要 (グラフと表として表示)、デバイスごとにグループ化された NG の概要 (表として表示) を提供します。

デバイス別のNG:

デバイス	デバイスのタイプ	アラームの種類	# NG	NGの期間
EM	EM Awareモニター	静電圧	199	00:14:58
EM	EM Awareモニター	ESDイベント	61	00:01:36
WS	WS Aware モニター	人体抵抗	22	00:19:03
WS	WS Aware モニター	人体電圧	7	00:00:15
WS	WS Aware モニター	金属接地 EMI 電圧	2	00:00:02
WS	WS Aware モニター	マット接地抵抗	7	00:00:12

レポートの各部分には、障害の合計発生数と結合された合計期間が表示されます。

このレポートの場合、オプションは期間のみを選択します。レポートは常にすべてのアクティブなデバイスを考慮するため、デバイスまたはチャンネルの選択は利用できません。

エクスポートの場合、このレポートは PDF ドキュメントへのエクスポートも提供します。生成されたドキュメントは、PDF ボタンが使用されている場合は新しいブラウザウィンドウで開き、エクスポートポップアップで PDF 形式が選択されている場合はダウンロードされます。

## アラーム処理

アラーム処理(レポートの下) サイドバーメニューには、アラーム処理履歴に関する詳細情報が表示されます。

時間	アラーム	デバイス	重大度	評価する	処理済み	アクション	担当者	コメント
2022/12/22 15:52	静電圧	EM Awareモニター EM	アラーム-4	160.40 V	2022/12/23 15:52	期限切れ		
2022/12/22 15:52	ESDイベント	EM Awareモニター EM	アラーム-5	28.16 V	2022/12/23 15:52	期限切れ		
2022/12/22 13:40	ESDイベント	EM Awareモニター EM	アラーム-5	1,000.00 V	2022/12/22 15:52	解決済み	SCS	
2022/12/22 12:13	静電圧	EM Awareモニター EM	アラーム-5	-1,000.00 V	2022/12/22 15:52	解決済み	SCS	
2022/12/22 11:47	静電圧	EM Awareモニター EM	アラーム-5	1,000.00 V	2022/12/22 12:04	無視する	SCS	
2022/12/22 11:47	ESDイベント	EM Awareモニター EM	アラーム-2	140.38 V	2022/12/22 12:04	無視する	SCS	
2022/12/22 11:45	ESDイベント	EM Awareモニター EM	アラーム-1	58.96 V	2022/12/22 11:47	無視する	SCS	
2022/12/22 11:45	静電圧	EM Awareモニター EM	アラーム-3	-1,000.00 V	2022/12/22 11:47	無視する	SCS	
2022/12/22 11:44	静電圧	EM Awareモニター EM	アラーム-4	9.40 V	2022/12/22 11:44	無視する	SCS	
2022/12/22 11:43	ESDイベント	EM Awareモニター EM	アラーム-1	143.27 V	2022/12/22 11:44	解決済み	SCS	
2022/12/22 11:38	静電圧	EM Awareモニター EM	アラーム-5	-1,000.00 V	2022/12/22 11:44	無視する	SCS	

これは、処理されたアラームに関するすべての利用可能な情報を表示する標準のリストビューです。

各行は「クリック可能」で、行をクリックすると、関連する NG のリストが表示されます (詳細については、アラームと NG に関する章を参照してください)。

処理されたアラームリストでは、標準のフィルタリングは使用されません。使用可能なフィルタリングオプションは、オプションフォームにあります。

エクスポートの場合、このレポートは PDF ドキュメントへのエクスポートも提供します。生成されたドキュメントは、PDF ボタンが使用されている場合は新しいブラウザウィンドウで開き、エクスポートポップアップで PDF 形式が選択されている場合はダウンロードされます。

## デバイスの校正

デバイスの校正（サイドバーのレポートメニューの下）は、2つの目的を持つ特別な種類のレポートです。

このレポートは、デバイスの校正に関する情報を含むリストビューです。

名前	シリアル	デバイスのタイプ	校正済み	期限	注意
test	BC0002239022	Ion Pro ベンチトップイオナイザー	2022/09/01	2022/08/31	
WS	E31004190413	WS Aware モニター	2021/12/29	2022/12/28	
EM	E41004190401	EM Aware モニター	2022/04/23	2023/04/22	

校正の期限が切れているデバイスは赤で表示され、校正の期限が近づいているデバイスは黄色で表示され、緑は校正の期限が近づいていない校正済みのデバイスを示します。

この「レポート」の2つ目の目的は、校正関連情報の管理です。最初の列のデバイス名をクリックすると、フォームが表示されます。

### WS (E31004190413) 校正

2021/12/29  2022/12/28 

最後の校正 校正期限

注意

施設の管理者は、前回の校正日、次回の校正期日、メモを入力または編集できます。

このレポートは、施設のメンテナンスを支援するように設計されていますが、完全にオプションです。デバイスの校正スケジュールに関する正確な情報を維持することは、管理者の裁量に任されています。

エクスポートは PDF ドキュメントでのみ利用できます。PDF コマンドボタンをクリックすると、PDF レポートが新しいブラウザウィンドウで開きます。

## アラート

SMP は、システム内の問題について通知することができます。SMP Manager は、前述のようにリアルタイムでこの情報を提供しますが、問題が発生したときに SMP Manager を使用していない人々に通知することも重要です。SMP サーバーは、問題に関する電子メール通知を送信できます。この機能は、最大限の柔軟性を提供し、すべての実用的なユースケースをカバーするように設計されています。

サイドバーのツールメニューのアラートでは、通知スケジュールが定義された標準のリストビューが開きます。

	メール ↑	題名 ⇅	アラーム ⇅	NG ⇅
<input type="checkbox"/>	hitoshi.kanda@desco.com	ESDイベント	瞬間	毎日
<input type="checkbox"/>	shizuka.kudou@desco.com	オフィスアラーム	毎日	毎週

詳細ビューでスケジュールを定義します。

新しいアラート通知

Eメール フィルター

hitoshi.kanda@desco.com

受信者のEメール

ESDイベント

題名

瞬間      毎日

アラーム通知を送信する      障害通知の送信

空の通知を送信する       電子メールの添付ファイルを使用する

## 電子メールタブ

このタブでは、送信される通知電子メール（受信者、タイトル、内容）を定義します。通知電子メールには、アラーム、NG、またはその両方に関する情報が含まれる場合があります。

アラーム通知を送信するためのオプションは次のとおりです。

- なし（通知を送信しない）
- 即時（アラームが発生した瞬間に通知が送信されます）
- 15 分ごと
- 毎時
- 4 時間ごと
- 毎日



一定期間にわたって送信されたアラームの通知には、その期間内に発生したアラームのリストが含まれます。

**空メールの通知**を送信するオプションは、「空の」電子メールを送信するかどうかを制御します。たとえば、このオプションがオンで、アラーム通知が 15 分ごとにスケジュールされていて、15 分以内にアラームがなかった場合、**アラームなし**の通知電子メールが送信されます。

NG 通知を送信するためのオプションは次のとおりです。

- なし (通知を送信しない)
- 毎日
- 毎週
- 毎月

NG 通知には、選択した期間の **NG 概要レポート**が含まれます (このレポートの詳細については、前の章を参照してください)。レポートには常に、デバイスタイプ別の NG、アラーム タイプ別の NG、デバイス別の NG が含まれます。

**電子メールの添付ファイル**を使用オプションは、集計テーブルをメッセージ本文に埋め込むか、Excel テーブルとして添付するかを制御します。

### フィルタータブ

The screenshot shows a web interface with two tabs: "Eメール" and "フィルター". The "フィルター" tab is active. It contains two columns of filter options. The left column has a dropdown for "デバイスのタイプ" (Device Type) with "WS Aware モニター" selected, and a text input for "ライン" (Line). The right column has a dropdown for "アラームの種類" (Alarm Type) with "ESDイベント" selected, and a text input for "場所" (Location). At the bottom, there is a text input for "デバイス" (Device).

このタブは、問題をフィルタリングするための多目的オプションを提供します。通知される問題を、1 つまたは複数のデバイスタイプ、アラームタイプ、デバイス、回線、または場所に制限することができます。この機能は、すべての実用的なユースケースをカバーする柔軟性を提供します。

#### ※注

上記のフィルタリングオプションのいずれかが空の選択 (何も選択されていない) は、「すべてを使用する」ことを意味します。

## オプション

SMP Manager は、特定のシステム オプションを制御します。SMP Manager 自体の一部の表示を設定および変更できるだけでなく、一部の Backend 機能の操作を制御することもできます。

### 重要！

オプションページで行ったすべての変更は、必ず保存ボタンをクリックして保存する必要があります。

オプションは、サイドバーのツールメニューにあります。

### 一般タブ

## システムオプション

保存

全般 **サーバー**

温度 (°F)

20

管理者リストのページサイズ:

20

アラームリストのページサイズ:

1

リアルタイムのデバイス更新 (秒) (s):

3

ライブステータスの更新 (秒) (s):

5

アラームリストの更新 (秒) (s):

3

場所のステータスの更新 (秒) (s):

### エクスポート

ドキュメントタイプ	最大テーブルサイズ
テキスト	100000
Excel	100000
PDF	200

大きなテーブルを切り捨てる

注意: PDF では、大きなテーブルは常に切り捨てられます (破壊はされません)。

ここでは、SMP Manager のいくつかの側面を制御できます。

- 温度単位 (摂氏または華氏)
- 管理セクションのすべてのリストビューのページサイズ (行数)
- ライブビューの更新期間: ライブデバイス ビュー、ライブステータス ビュー、アラームリスト、ライブロケーション ビュー

エクスポート動作を制御することもできます。生成されたレポートには膨大な量のデータが含まれる可能性があることは、レポートを説明する章で既に述べました。これにより、数百万行の Excel テーブル、数百万行のテキストファイル、または数千ページの PDF ファイルが生成されます。エクスポートオプションは、最大許容データ サイズ (項目数) を設定することでこれを制御します。

大きなテーブルを切り捨てるオプションは、エクスポートの動作をさらに定義します。オンにすると、大きなテーブルは定義されたサイズで切り捨てられます。オフにすると、データが設定された制限よりも大きい場合、エクスポートされたドキュメント (Excel シートまたはテキスト ファイル) は生成されません。

## サーバータブ

このタブには、Backend 操作を制御する設定が含まれています。

The screenshot shows the 'Server' tab in the SMP Manager interface. It is divided into two main sections: 'データベース' (Database) on the left and 'メールサーバー (SMTP)' (Email Server (SMTP)) on the right. The 'データベース' section includes a '時間分割' (Time Partitioning) field set to '01:00' and a '分割サイズ (MB)' (Partition Size (MB)) field set to '2048'. The 'メールサーバー (SMTP)' section includes a 'サーバー' (Server) field with 'mail.smtp.com', a 'ポート' (Port) field with '0', and an 'SSL を使用する' (Use SSL) checkbox which is checked. There are also empty input fields for 'ユーザー名' (Username) and 'パスワード' (Password), and a '送信者' (Sender) field.

SMP Backend がシステムの問題に関する電子メール通知を送信する可能性があることは、前の章で既に説明しました。メール機能を利用できるようにするために、SMP は SMTP メールサーバーを使用します。このタブでは、SMTP サーバーに必要なすべてのパラメーターを使用できます。これは、通常、ネットワーク/システム管理者によって実行される高度な機能です。

SMP は、データを格納するためのシステム データベースを維持します。デフォルトでは、SMP は SQL Server Compact をデータベースエンジンとして使用します。SMP は、時間の経過とともに SQL Server Compact の制限を超える膨大な量のデータを収集して保存します (データベースサイズは 4 GB に制限されます)。これに対処し、履歴データを長期間保存できるようにするために、SMP は特別な**データカタログ**機能を使用します。

データベースのサイズが定義された制限に達すると、データベースは閉じられ、カタログに保存され、将来のデータを受け取るために新しいデータベースが作成されます。

SMP には、「カタログを介して」データクエリを実行できる非常に高度なカスタム実装があります。SMP Manager または API を介して履歴が要求されると、SMP Backend は指定された期間のすべてのデータベースにクエリを実行し、必要に応じて結果を結合します。

現在のデータベースが定義された制限に達した場合のデータベース分割操作は、非常に負荷が高くなります (時間とコンピューター リソースが必要です)。データベース分割プロセス中、SMP Backend は実質的に「シャットダウン」されます。デバイスからデータを受信せず、すべての API サービスが無効になります。このプロセスは通常 1 分未満で完了しますが、それでも履歴に不要な「ギャップ」が生じる可能性があります。潜在的な損傷を最小限に抑えるために、SMP Manager では**分割時間** (SMP が分割が必要かを確認し、必要な場合は実行する時刻) を設定できます。

**分割サイズ** (デフォルトは 2MB) を設定することもできます。これにより、データベースを分割するかを決定できます。

## 言語の変更

SMP Manager は翻訳されており、複数の言語で利用できます。言語の選択はサイドバーから行います:



## ソフトウェアのアクティベーション

SMP を操作するには、有効なライセンスが必要です。インストールすると、SMP は試用ライセンスで実行され、有効期限がサイドバーに表示されます。

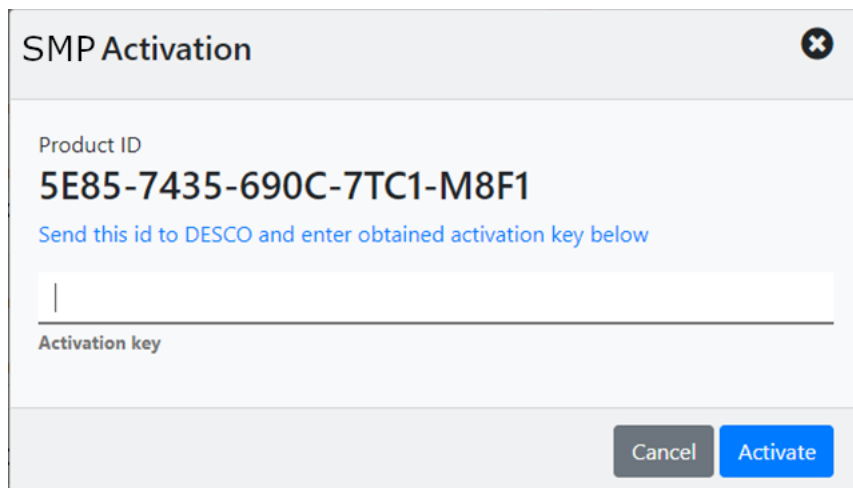
© DESCO INDUSTRIES INC  
version 1.1.15 expire 11/15/2020

 Activate

### 重要！

ライセンスは、SMP Manager で表示および管理されていますが、SMP Backend に関連していません。ライセンスの有効期限が切れると、SMP 全体が機能しなくなります。

SMP ソフトウェアを有効にするには、アクティブボタンをクリックします（下記画像を参照）。



SMP Activation

Product ID  
**5E85-7435-690C-7TC1-M8F1**

[Send this id to DESCO and enter obtained activation key below](#)

Activation key

Cancel Activate

このフォームには、固有の製品 ID が含まれています。この ID を 弊社に送信し、アクティベーションキーを取得します。それぞれのフィールドにアクティベーションキーを入力し、**アクティベート**をクリックします。

入力したアクティベーションキーが有効であった場合、SMP は永続的にアクティベートされます。

SCS から延長トライアルキーを取得することもできますが、有効期間は限られています。詳細については、弊社までお問い合わせください。

#### お問い合わせ

住所：〒289-1143 千葉県八街市八街 い193-12

電話：043-309-4470

サポート eメール：[Service@DescoAsia.co.jp](mailto:Service@DescoAsia.co.jp)

#### 保証、保証対象外、責任の制限、RMA は

DESCO JAPAN 保証を参照してください。

<https://www.descoasia.co.jp/Limited-Warranty.aspx>